

外からの目 External Evaluation

—大分大学女性研究者支援の取組をどう評価し、
これからにつなげていくか—



平成25年3月



国立大学法人 大分大学

外部評価および学内外意識調査の分析結果のご報告にあたって

大分大学女性研究者サポート室長

松 浦 恵 子

大分大学では、平成22年度文部科学省科学技術振興調整費による女性研究者支援モデル育成事業（現 女性研究者研究活動支援事業）に採択され、男女共同参画推進本部と女性研究者サポート室が設立されて3か年がたちました。その間、様々な取組を推進してまいりました。

私たちが取組んできた事業には、どのような効果があり、どのような課題があるのかを、外部からの目でしっかり評価していただきたい。そのための2種類の「外からの目」をここにご報告申し上げます。

一つ目は、取組んできた事柄をまとめた自己評価書と資料をもとに、外部評価をお願いいたしました。先行する大学で中心となり女性研究者支援、男女共同参画をすすめていらっしゃる先生方と、行政のお立場から男女共同参画に携わられている方の、厳しくかつ優しいまなざしで評価いただきました。ご多忙にもかかわらず、3名の評価者の方々に、大変貴重なご意見をいただくことができました。心より感謝申し上げます。

二つ目は、県内高校生および大分大学の在校生、女性研究者、支援担当者を対象とした意識調査、また事業終了にあたっての取組と今後の展望についてのワークセッション、これらのたいへん多くのデータを分析し、浮かび上がってくる事実や問題点、今後につながるアイデアなどを、データ分析のプロの目からまとめていただきました。意識調査、ワークセッション等にご協力いただいた皆様、(株)電通マーケティングインサイトの皆様に深く感謝申し上げます。

「外からの目」で見つめなおし、喜びや反省、そして今後への展開につなげることができました。これからも、このような「外からの目」が照らして下さったこれからの道筋をたどりながら、大分大学の男女共同参画を推進してまいりたいと思います。

今後ともどうかご支援、ご協力をいただきますよう、お願い申し上げます。

目 次

外部評価および学内外意識調査の分析結果のご報告にあたって	1
第1部 外部評価	5
1. 概要	
2. 評価結果	
第2部 学内外意識調査の分析結果	
1. 各種調査の概要	13
2. 大分大学における「男女共同参画」の浸透と、女性研究者サポート室の活動	16
(1) 評価まとめ	
(2) 今後に向けての課題・提言	
○「男女共同参画」浸透の状況	
○「男女共同参画」に対する意識	
○大分大学における「男女共同参画推進の取組」認知	
○「F A B（女性研究者サポート室）」認知・浸透状況	
3. 女性研究者に対する各種サポート事業	27
(1) 評価まとめ	
(2) 今後に向けての課題・提言	
○F A B活動評価＜キャリアサポート＞	
○F A B活動評価＜環境サポート＞	
○F A B活動評価＜情報サポート＞	
○F A Bに対する全般的な評価	
○大分大学のプレゼンス向上への貢献	

4. 大分大学における「女性研究者」の実状と、職業としての「女性研究者」のイメージ …… 38

(1) 評価まとめ

(2) 今後に向けての課題・提言

- 研究環境としての大分大学への満足度
- 女性研究者としての将来への不安感
- 女性研究者どうしにおける交流の実態
- 「研究者になること」に対する次世代の意識
- 次世代が抱く「研究者」のイメージ

(参考資料) …… 49

- 今後に向けての課題・提言一覧
- ワークセッションからのアイデア一覧
- 各種調査票（学部卒業予定者・女性研究者・高校生・学部在学学生）

第 1 部

外 部 評 価

1. 外部評価の概要

1. 目的

大分大学では、平成 22 年度文部科学省科学技術人材育成費補助金女性研究者研究活動支援事業（女性研究者支援モデル育成）に、「地域社会で育む『輝く女性研究者』支援」が採択されたことを契機として、女性研究者サポート室を設置し、女性研究者支援のための各種の取組を進めてきた。

あわせて、本取組をより効果的に推進するためには、全学を挙げての協力体制が必須であることから、大分大学男女共同参画推進本部を設置し、「大分大学男女共同参画推進宣言」及び「大分大学男女共同参画行動計画」を策定し、性別にかかわらず、男女がその個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現を目指している。

すでに、3 年間という補助事業の期間が終了しようとしている現時点において、これまでの事業の実績を自ら点検評価するとともに、外部評価委員の方々から評価を受けることで、より客観的な視点から支援事業を見直すとともに、補助事業終了後における取組に役立てることを目的とする。

2. 外部評価委員

女性研究者支援モデル育成事業に関わった有識者 2 名と男女共同参画に関わる有識者 1 名とし、以下の 3 名に委嘱した。なお、委員長は設定しない。

有賀 早苗 北海道大学副理事・女性研究者支援室長

大井久美子 長崎大学学長特別補佐・男女共同参画推進センター長

山戸 康弘 大分県消費生活・男女共同参画プラザ所長

3. 実施期間

平成 25 年 2 月 15 日～3 月 15 日

4. 実施方法

外部評価委員による書面審査とし、委員一堂に会する会議は行わないこととした。

外部評価委員には、送付した評価資料を基に事業の各項目（キャリアサポート・環境サポート・情報サポート・地域連携サポート）及び総合評価に対する 3 段階評価 (A,B,C) をお願いするとともに、項目ごとに課題等についてのコメントを依頼した。

評価 (A,B,C) は以下のとおりとした。

A：取組は順調に進められている。

B：取組はおおむね順調に進められている。

C：一層の努力が必要である。

5. 評価資料一覧

資料 1：自己評価書

資料 2：事業提案書（女性研究者支援モデル育成）

資料 3：平成 22 年度実績報告書（J S T 提出）

資料 4：平成 23 年度実績報告書（J S T 提出）

資料 5：大分大学女性研究者の推移

資料 6：平成 22 年度研究者の意識調査報告書・別冊（職員の意識調査報告書）

資料 7：平成 23 年度（活動）報告書

資料 8：高校生アンケート調査報告書

資料 9：病児保育に関するアンケート調査報告書

資料 10：News Letter（創刊号～No. 7）・News Letter 号外（～No. 2）

資料 11：F A B レポート（～No.13）

資料 12：大分大学女性研究者ロールモデル集（Vol 1・Vol 2）

資料 13：大分大学における男女共同参画の推進（リーフレット）

資料 14：大分大学女性研究者サポート室“F A B”ってなに？（リーフレット）

資料 15：ママの研究室（啓発本）

2. 評価結果

～各委員による評価、総合評価コメント、項目別のコメント～

1. 各委員による評価

	キャリアサポート	環境サポート	情報サポート	地域連携サポート	総合評価
A委員	A	A	A	A	A
B委員	A	B	A	A	A
C委員	A	A	A	A	A

2. 各委員の総合評価コメント

	コ メ ン ト
A委員	学長および女性研究者サポート室長のリーダーシップの下、ミッションステートメントに掲げた項目全般について大変よく取り組まれてきていると思う。教員・院生の数値目標については、目標に届かなかった理由を精査し、焦らず継続的に実現に向けて努力されたい。事業終了後、限りある自主財源を投じて行う支援活動は限定的な内容にならざるをえないが、実施したアンケート結果等に基づき必要な支援を選択して継続していただきたい。
B委員	女性教員増員のための大学独自のインセンティブの付与は特筆すべきである。また、学内外に向けての広報活動も活発で、意識啓発を力強く行っている。
C委員	ミッションステートメントの中には一部の目標に未達成の目標もあるが、研究支援、研究環境支援等を積極的に実施し、短期間にその成果は着実に上がっていると考えられる。今後は、学内における取組に加え、より一層他の機関や団体との連携・協働を図り、地域における男女共同参画の推進に寄与していくことを期待する。

3. 各委員の項目別評価コメント

(1) キャリアサポート

	コ メ ン ト
A委員	育児に係る研究補助員配置を男性研究者にも実施したこと、介護についても実施したことは評価できる。多彩なキャリアアップセミナーの開催、また研究費・学会派遣についても自主財源で実施しており、事業終了後の継続性も期待できる。一方、研究者奨励、学会派遣等での「女性枠」という言葉には強い違和感を覚える。質に関わらず一定数の「枠」を確保するのではなく質の高い女性を応援する支援であってほしい。女性を「枠」に囲い込む、あるいは枠にはめて考えることも支援にあたっては避けるべきではと思う。
B委員	大学独自のやり方で、男女両方の研究者に育児や介護の際の研究補助や女性教員増員に対してのインセンティブの付与をしていることは大いに評価できる。研究費、学会費の支援も効果があった。
C委員	研究サポーター事業について女性だけでなく男性も取得していることや、研究奨励賞を受賞した女性研究者が地域の公開セミナーで成果発表を行うなど、その取組は高く評価できる。今後は、人材バンクの周知に努め、研究サポーターの確保に一層努められたい。 また、女性教員の増員（ミッションコンプリート案）についても、今後の着実な実施を期待する。

(2) 環境サポート

	コ メ ン ト
A委員	保育等に係るニーズは女性研究者が少ない現状では変動が大きく、対応が難しいが、基盤環境が整備されれば女性研究者も増え、安定したニーズにも繋がるであろう。病児保育の実現に漕ぎ着けたことは評価できる。
B委員	男女共同参画推進棟の新設に伴い、「休憩室&相談室」が充実したことは評価できる。保育基盤整備、病院保育の実施に向けてはおおむね準備が進められている。
C委員	両キャンパスでの「休憩室&相談室」の整備及び挟間キャンパスでの病児保育実施の決定は、女性研究者に対する仕事と育児の両立の観点から、高く評価できる。今後とも、両キャンパスでのニーズの違いを的確に把握し、事業の実施に努められたい。

(3) 情報サポート

	コ メ ン ト
A委員	丁寧な回答を解析した各種アンケート調査は事業終了後の活動指針ともなり、また他大学等研究機関にも大いに参考になる内容である。 NewsLetter やレポートを数多く作成し、事業・支援活動の周知に努めたことは高く評価できるが、事業終了後の費用対効果による活動優先順位でどのように位置づけるか検討が必要と思う。対象をターゲティングした多数のセミナーによる意識啓発・意識改革も意欲的に行われ、評価できる。
B委員	ホームページ、広報誌、イメージキャラクターFAB子ちゃんの創作等、学内外に向けての広報活動が活発に行われており、次世代育成事業も種々実施されているところが評価できる。
C委員	高校生を対象にしたアンケートの実施や、啓発本「ママの研究室」の県内の全高等学校・中学校への配付、全新生入生に対する男女共同参画講義は、男女共同参画を広く啓発する観点から、高く評価できる。地域に密着した大学として、男女共同参画推進のために更なる情報発信を期待する。

(4) 地域連携サポート

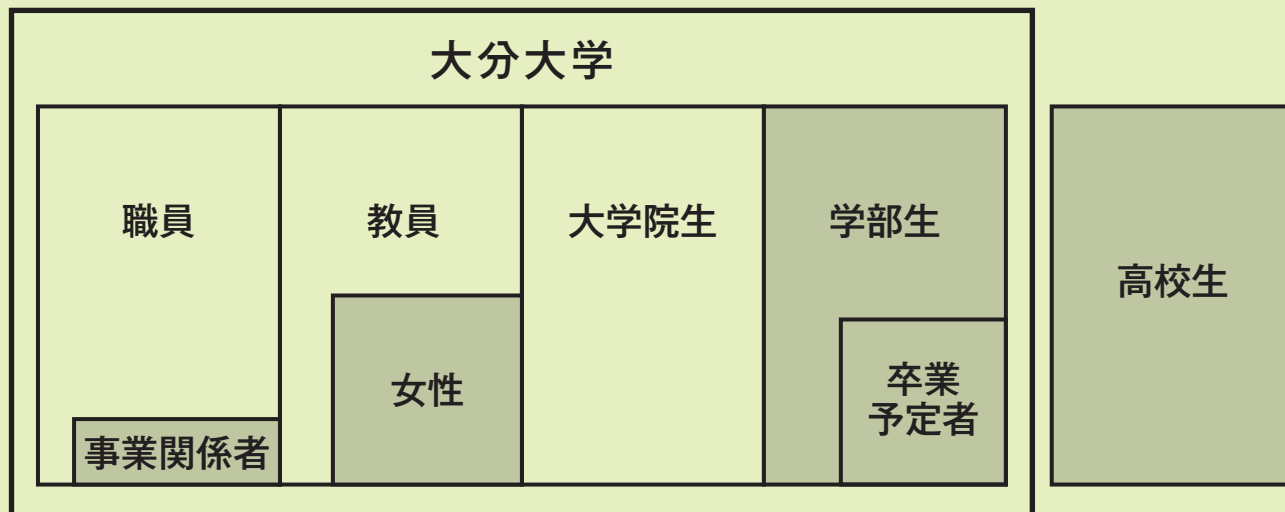
	コ メ ン ト
A委員	地方行政機関との連携、および地域への発信に精力的に取り組んできていることは評価できるが、大学と地域の一体的な活動に繋がる交流には発展していないように思う。今後は大学・地域双方が Win-Win の関係になるような連携へ展開していくことを期待する。
B委員	県や教育機関、地方公共団体との連携をバランスよく行っており、労働局雇用均等室の支援を見据えての地方連携サポートは評価できる。
C委員	県との連携は、様々な事業で相互協力しており高く評価できる。今後は、新設予定の市町村男女共同参画センターや、他大学との連携についても期待する。

第 2 部

学内外意識調査の分析結果

1. 各種調査の概要

調 査 対 象



今回報告分

別冊で報告

なお高校生調査の詳細は
別冊「高校生アンケート調査報告書」

その他別冊

「平成24年度 研究者の意識調査報告書」

「病児保育に関するアンケート調査報告書」

「平成22年度 研究者の意識調査報告書」

「平成22年度 研究者の意識調査報告書
別冊（職員の意識調査報告書）」

【卒業予定者調査】

- 調査時期：平成24年2月27日～3月19日
- 調査対象：平成23年度学部卒業予定者
- サンプル数：138名（右表参照）
- 調査方法：自記式（配布による自記式アンケート）

（名）	全体	男性	女性
教育福祉科学部	10	5	5
経済学部	42	29	13
医学部	12	6	6
工学部	74	63	11
合計	138	103	35

【女性研究者インタビュー】

- 調査時期：平成24年3月24日
- 調査対象：女性教員 2名
- 調査方法：個別 1to1インタビュー

【対象者プロフィール】

- ケース1：医学部助教（社会人大学院生）／ ケース2：教育福祉科学部講師

【女性研究者調査】

- 調査時期：平成24年5月28日～6月12日
- 調査対象：大分大学に在籍する女性研究者
- サンプル数：58名（女性教員91名中回収率：63.7%）
- 調査方法：自記式（配布による自記式アンケート）

（名）	女性
教育福祉科学部	10
経済学部・看護学科	2
医学部・医学科あるいは付属病院	19
医学部・看護学科	7
工学部	7
合計	58

【高校生調査】

- 調査時期：平成24年10月4日（2学期中間考査実施日）
- 調査対象：大分県立大分舞鶴高校に在籍する1年・2年の男女
- サンプル数：630名（右表参照）
- 調査方法：自記式（配布による自記式アンケート）

（名）	全体	男性	女性
1年	315	158	148
2年	315	153	156
合計	630	311	304

【インナーヒアリング】

- 調査時期：平成24年10月12日
- 調査方法：個別 1to1インタビュー

【対象者プロフィール】

- ケース1：女性研究者サポート室長
- ケース2：総務部長

【在校生調査】

- 調査時期：平成24年12月3日～27日
- 調査対象：学部在学中の学生
- サンプル数：1,794名（右表参照）
- 調査方法：自記式（配布による自記式アンケート）

（名）	全体	男性	女性
教育福祉科学部	428	112	313
経済学部	544	297	247
医学部	436	202	233
工学部	386	319	62
合計	1794	930	855

【ワークセッション】

- 実施日：平成25年2月8日9:00～17:00
- 会場：大分大学 産学官連携推進機構棟内 セミナールーム
- 参加者：総務企画課、研究協力課、女性研究者サポート室 職員 8名
女性大学院生（工学研究科）3名
（株）電通マーケティングインサイト 職員

2. 大分大学における「男女共同参画」の浸透と、女性研究者サポート室の活動

(1) 評価まとめ

◆ 「男女共同参画」という言葉自体は広く浸透している

高校生・在校生・卒業予定者すべてで認知が9割前後となっており、「男女共同参画」に直接的に関与していない層においても、言葉自体の認知は定着していると言える。

◆ ただし、その意識に男女差がまだみられる

高校生・在校生ともに、社会での女性の活躍には男女ともにほとんどが賛成している。ただ、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方や、結婚後・出産後の仕事の継続については男女間で差が目立ち、男性で保守的な意見がまだまだ根強い。特に、在校生でこの傾向が目立つため、今後の男性の意識変革が期待される。

◆ 大分大学における男女共同参画の認知は3～4割

在校生では学年が上がるほど認知が高くなる、在学生・卒業予定者ともに医学部の認知が高いなど、学年・学部での差はみられるが、認知は3～4割程度であった。

◆ 在校生・卒業予定者では4割弱がFABを認知。当事者意識の低い男性への浸透が今後期待される

女性における認知率の方が高く、在校生では約1割、卒業予定者では3割弱上回っている。認知経路はテレビCMや学内広報が多く挙げられており、今後は更なる広報の充実によって男性への認知を拡大していくことが鍵になると言える。

◆ 女性研究者におけるFABの浸透(認知率95%)は十分に高い

女性研究者では、ほぼ全員がFABを認知しており、学内掲示やホームページが主な認知経路として挙げられている。女性教員に対しても、具体的な内容に関してはまだ完全とはいえないものの、FABの存在や活動に対する認知は十分に浸透している。

◆ 何もないところからのスタートであったが、男女共同参画推進の素地は整いつつある

「男女共同参画」という言葉すらなかったところから、今は反対している幹部もおらず、担当理事も就任するまでになっている。活動内容としても、国に評価されるものを実施しており、先例も増えている。

(2) 今後に向けての課題・提言

◆ 男女共同参画を推進する部隊こそが、男女共同参画の望ましい形を体現すべき

仮に、男女共同参画推進室が女性メンバーばかりで占められていれば、名が体を表しているとは言い難い状況になってしまう。メンバー構成・役割分担・参画意識のいずれにおいても、大分大学における男女共同参画の規範となるべき存在を目指したい。

◆ 学生の当事者意識を高め、取り組みに巻き込んでいく仕掛けが求められる

何らかの方法で男女共同参画推進の活動に参加させて・巻き込んで、学生を当事者化させることによって、学生の間における男女共同参画への意識を向上させることを狙いたい。
また、特に意識の高い人をスタッフに登用することで推進の人的リソースが確保できるという副産物も期待できる。(次頁のワークセッションからのアイデア「学生による推進委員会」参照)
このほか、「キャッチフレーズ(ネーミング)の公募」などは、学生にとって参加のハードルが低い好例であると言える。

◆ 「男女共同参画」という言葉の高い浸透度を有効に活用すべき

言葉自体の認知は極めて高いが、それが意識の高まりにつながっているかについては、まだ保守的な態度が散見されるなど直結しているとは言い難い。特に相対的に意識が低い男性において、言葉自体の認知を、内容の認知および理解・共感に転嫁させる工夫が求められる。

◆ 親しみやすさの確保は重要な要素

「女性研究者サポート室(FAB)」は高い認知を獲得するに至ったが、テレビCM、キャラクター、冊子の発行などの貢献度は十分にあったとみられる。
今後、「男女共同参画推進室」にその役割が引き継がれても、組織としての接し方(または接しられ方)は変えるべきではないと考えられる。
それは「親しみやすさ」という言葉で表現される概念であり、サポートを必要とする人が、取組・施策に興味・関心を抱くきっかけに大きな役割を果たすものであるが、その効果の最大化のためには、各媒体の役割や方向性、ターゲット設定の明確化などの工夫が必要となる。

◆ 男女共同参画推進体制の拡大・強化も、今後重要な課題となる

様々な取組を継続させ、さらに拡大させていくにあたっては人的リソースの確保は避けて通れない問題となるが、その際においては、組織内／組織外、専任／兼任などを問わず有能な人材を積極的に活用する姿勢があつてよいと考えられる。実際に、ワークセッションからのアイデアにおいても「学生による推進委員会」や「退職教員の活用協力」が挙げられている。
また、組織・体制を拡大・強化していくにあたっては、組織体としてPDCAサイクルを確立するためにも、成果の「見える化」(評価・フィードバック)の仕組み作りも併せて進めていくべきであり、同時に切れ目のない推進のために、次代の推進者を常に育成していく仕組みも検討していく必要があるだろう。

○「男女共同参画」浸透の状況

【卒業予定者調査 平成24年2月実施】

- 「男女共同参画」の言葉の認知は90%（女性：86%）。

【高校生調査 平成24年10月実施】

- 「公民」科目で学習する言葉でもあり、「男女共同参画」という言葉の認知自体は97%と高い。

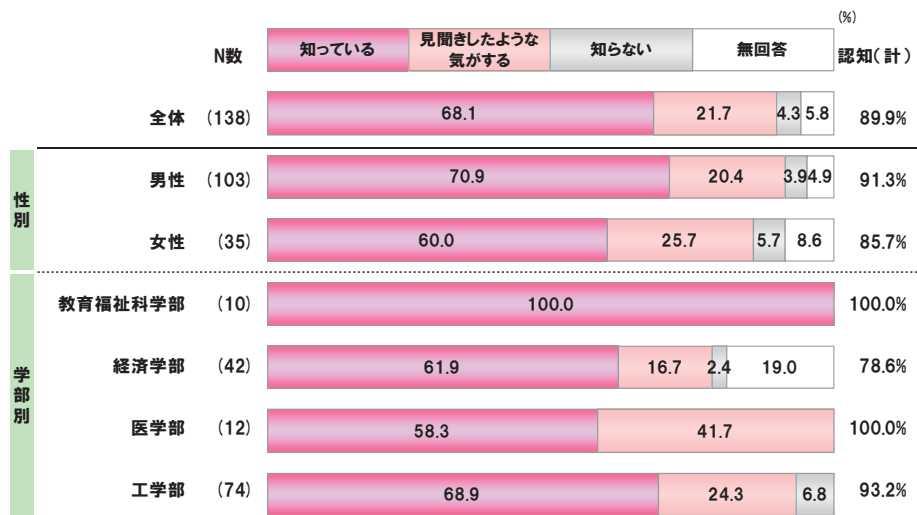
【在校生調査 平成24年12月実施】

- 「男女共同参画」の言葉の認知は99%。

Q あなたは、「男女共同参画」ということばについて知っていましたか。（○はひとつだけ）

「男女共同参画」：男女が互いの人権を尊重し社会に参加し、社会経済情勢の変化に対応し、豊かで活力ある社会を築いていくこと

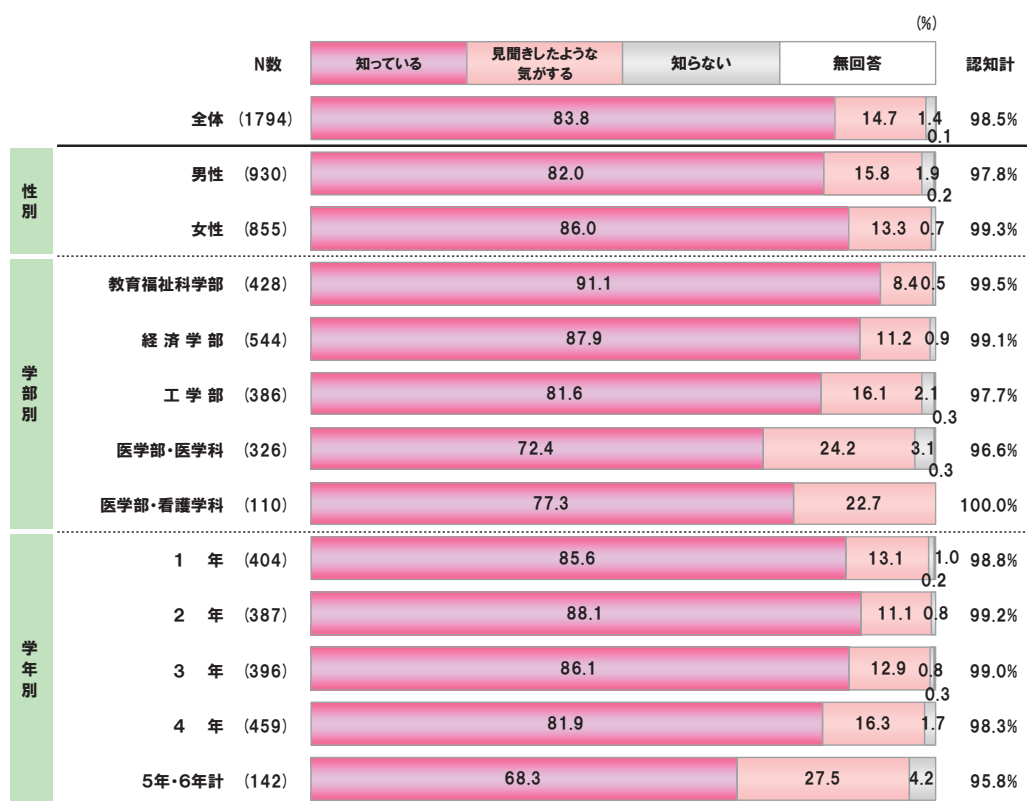
【卒業予定者】



【高校生】



【在校生】



○「男女共同参画」に対する意識

【在校生調査】

- 男女・学部による意識の差は大きい。
- 高校生(P.22参照)と比べても保守的な意見が多く、継続的な啓発活動が求められる。
- 例えば、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方に、女性はや反対(計)が69%。一方男性は46%が反対、賛成が38%である。さらに学年が高いほど賛成層が増える。
- 学部別では、医学部看護学科や教育福祉学部で意識が高い。

Q 次にあげるような考え方について、あなたは「賛成」「反対」どちらのお立場ですか。あなたの意見に最も近いものをお知らせください。(○はひとつだけ)

		(%)					賛成計	反対計
		賛成	どちらかといえは賛成	どちらかといえは反対	反対	わからない		
(1) 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方	全体 (1794)	4.7	25.3	28.2	28.4	13.0	30.0%	56.6%
	性別							
	男性 (930)	7.4	30.8	24.6	21.2	15.7	38.2%	45.8%
	女性 (855)	1.8	19.2	32.2	36.5	10.1	20.9%	68.7%
	学部別							
	教育福祉科学部 (428)	3.0	16.6	32.0	35.0	12.9	19.6%	67.1%
	経済学部 (544)	3.5	30.0	28.7	27.6	9.9	33.5%	56.3%
	工学部 (386)	6.5	27.5	24.4	23.3	17.9	33.9%	47.7%
	医学部・医学科 (326)	7.7	27.9	24.8	24.5	15.0	35.6%	49.4%
	医学部・看護学科 (110)	2.7	20.9	34.5	36.4	5.5	23.6%	70.9%
	学年別							
	1年 (404)	3.0	24.8	29.2	29.5	13.1	27.7%	58.7%
	2年 (387)	3.9	21.7	30.0	32.0	12.1	25.6%	62.0%
	3年 (396)	5.6	26.8	30.1	26.8	10.6	32.3%	56.8%
	4年 (459)	4.6	25.3	27.0	29.4	13.3	29.8%	56.4%
	5年・6年計 (142)	9.9	33.1	20.4	16.9	19.7	43.0%	37.3%
(2) 「女性が社会で活躍するのは良いことだ」という考え方	全体 (1794)	68.8	25.9	1.4	3.1	0.5	94.8%	1.9%
	性別							
	男性 (930)	62.5	30.1	2.2	4.0	1.0	92.6%	3.1%
	女性 (855)	75.9	21.3	0.6	0.1	12.1	97.2%	0.6%
	学部別							
	教育福祉科学部 (428)	72.7	24.3	0.5	2.3	0.2	97.0%	0.7%
	経済学部 (544)	71.1	23.5	1.5	2.9	0.6	94.7%	2.0%
	工学部 (386)	64.5	28.8	1.6	3.9	0.8	93.3%	2.3%
	医学部・医学科 (326)	62.6	31.0	2.1	3.7	0.6	93.6%	2.8%
	医学部・看護学科 (110)	76.4	19.1	1.8	2.7	0.0	95.5%	1.8%
	学年別							
	1年 (404)	73.0	21.5	1.5	2.2	1.2	94.6%	2.7%
	2年 (387)	70.0	25.6	0.3	3.9	0.3	95.6%	0.5%
	3年 (396)	67.7	28.0	1.0	2.5	0.5	95.7%	1.5%
	4年 (459)	68.6	26.1	1.7	3.1	0.2	94.8%	2.0%
	5年・6年計 (142)	57.0	33.8	4.2	4.9	0.0	90.8%	4.2%

【基数：全体】

		(%)							賛成計	反対計			
		賛成	どちらかといえは賛成	どちらかといえは反対	反対	わからない	無回答						
(3)	「女性は、結婚しても働き続けるのが良い」という考え方	性別	全体 (1794)	21.9	44.8			11.8	1.7	19.5	0.3	66.7%	13.5%
		男 性 (930)	15.7	42.2			16.7	2.8	22.4	0.3	57.8%	19.5%	
		女 性 (855)	28.8	48.1			6.3	0.5	16.0	0.4	76.8%	6.8%	
	学部別	教育福祉科学部 (428)	21.0	48.1			7.2	1.6	21.7	0.2	69.2%	8.9%	
		経 済 学 部 (544)	25.0	43.9			11.2	0.4	19.1	0.4	68.9%	11.6%	
		工 学 部 (386)	16.6	39.9			16.3	2.8	23.8	0.5	56.5%	19.2%	
		医学部・医学科 (326)	24.5	44.5			13.8	2.1	14.7	0.3	69.0%	16.0%	
		医学部・看護学科 (110)	20.9	54.5			10.9	2.7	10.9		75.5%	13.6%	
	学年別	1 年 (404)	21.5	43.1			11.9	2.0	21.0	0.5	64.6%	13.9%	
		2 年 (387)	19.1	42.9			13.4	1.3	23.0	0.3	62.0%	14.7%	
		3 年 (396)	23.7	47.0			11.1	2.0	15.7	0.5	70.7%	13.1%	
		4 年 (459)	22.0	47.5			10.2	1.3	18.7	0.2	69.5%	11.5%	
		5年・6年計 (142)	25.4	41.5			13.4	2.1	17.6		66.9%	15.5%	
(4)	「女性は、子どもができたらず育てに専念すべきである」という考え方	性別	全体 (1794)	5.7	26.1	32.2	17.7		17.8	0.4	31.8%	49.9%	
		男 性 (930)	8.4	29.6	28.0	13.0		20.8	0.3	38.0%	41.0%		
		女 性 (855)	2.8	22.1	37.2	22.9		14.5	0.5	24.9%	60.1%		
	学部別	教育福祉科学部 (428)	2.3	24.3	36.2	19.4		17.3	0.5	26.6%	55.6%		
		経 済 学 部 (544)	5.7	24.6	32.5	17.6		19.1	0.4	30.3%	50.2%		
		工 学 部 (386)	9.1	28.0	29.0	13.5		20.2	0.3	37.0%	42.5%		
		医学部・医学科 (326)	6.4	29.4	26.7	20.6		16.3	0.6	35.9%	47.2%		
		医学部・看護学科 (110)	5.5	23.6	42.7	18.2		10.0		29.1%	60.9%		
	学年別	1 年 (404)	5.2	29.0	30.0	17.1		18.3	0.5	34.2%	47.0%		
		2 年 (387)	5.7	23.5	37.7	16.8		16.0	0.3	29.2%	54.5%		
		3 年 (396)	6.8	27.8	31.6	16.4		16.9	0.5	34.6%	48.0%		
		4 年 (459)	4.6	23.7	31.8	20.3		19.4	0.2	28.3%	52.1%		
		5年・6年計 (142)	8.5	26.8	28.2	16.9		19.0	0.7	35.2%	45.1%		
【 基数:全体 】													

【基数:全体】

【高校生調査】

- 「女性が社会で活躍することは良いことだ」について93%が賛成。
- 男女の意識の差が大きい。
- 結婚後・出産後の仕事の継続への反対意見は男性で根強い。特に出産後の仕事の継続については反対38%に対し賛成36%と意見が拮抗している。
- 女性でも出産後の仕事については賛成48%に対し、26%が反対するなど、一部で保守的思想もみられる。

Q 次にあげるような考え方について、あなたは「賛成」「反対」どちらのお立場ですか。あなたの意見に最も近いものをお知らせください。(〇はひとつだけ)

		(%)						賛成計	反対計
		賛成	どちらかといえは賛成	どちらかといえは反対	反対	わからない	無回答		
(1) 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方	全体 (630)	2.1	17.8	29.0	37.9	1.9		19.8%	67.0%
	男性 (311)	2.9	23.5	28.3	28.6	16.7		26.4%	56.9%
	女性 (304)	1.3	12.5	31.3	48.7	6.3		13.8%	79.9%
(2) 「女性が社会で活躍するのは良いことだ」という考え方	全体 (630)		71.0		21.7	4.0	0.9	92.7%	1.4%
	男性 (311)		65.3		26.7	1.1	0.3	92.0%	2.3%
	女性 (304)		79.9		17.1	2.3	0.3	97.0%	0.7%
(3) 「女性は、結婚しても働き続けるのが良い」という考え方	全体 (630)	18.4	39.5	12.5	0.8	26.7	2.1	57.9%	13.3%
	男性 (311)	10.6	37.6	18.3	1.0	32.2	0.3	48.2%	19.3%
	女性 (304)	27.0	43.1	6.9	0.7	22.4		70.1%	7.6%
(4) 「女性は、子どもができれば子育てに専念すべきである」という考え方	全体 (630)	5.1	25.7	32.2	14.3	20.6	2.1	30.8%	46.5%
	男性 (311)	6.1	29.9	28.0	9.6	26.0	0.3	36.0%	37.6%
	女性 (304)	3.9	22.4	38.2	19.4	16.1		26.3%	57.6%

【基数:全体】

【インナーヒアリング】

- 男性の育児参加が全国最低との調査結果も出たように、地域的にも取組が遅れていた。

○ 大分大学における「男女共同参画推進の取組」認知

【卒業予定者調査】

- 大分大学で男女共同参画推進の取組の認知は45%。
- 「確かに知っている」人は12%程度だが、教育福祉科学部や経済学部では約2割。

【在校生調査】

- 大分大学での男女共同参画推進への取組認知は35%。
- 5・6年では60%の認知であるが、1～4年では2～3割台にとどまる。医学部では認知が60%と高い。

Q 大分大学では、平成22年7月に男女共同参画推進本部を設置し、教育・研究や大学運営等、様々な面での男女共同参画推進への取組を行っていますが、あなたはこのことを知っていましたか。(○はひとつだけ)

【卒業予定者調査】

		(%)			
	N数	知っている	見聞きしたような気がする	知らない	無回答
性別	全体 (138)	11.6	33.3	49.3	5.8
	男性 (103)	10.7	35.0	49.5	4.9
	女性 (35)	14.3	28.6	48.6	8.6
学部別	教育福祉科学部 (10)	20.0	20.0	60.0	
	経済学部 (42)	21.4	26.2	33.3	19.0
	医学部 (12)	8.3	50.0	41.7	
	工学部 (74)	5.4	36.5	58.1	
					認知(計)
					44.9%
					45.6%
					42.9%
					40.0%
					47.6%
					58.3%
					41.9%

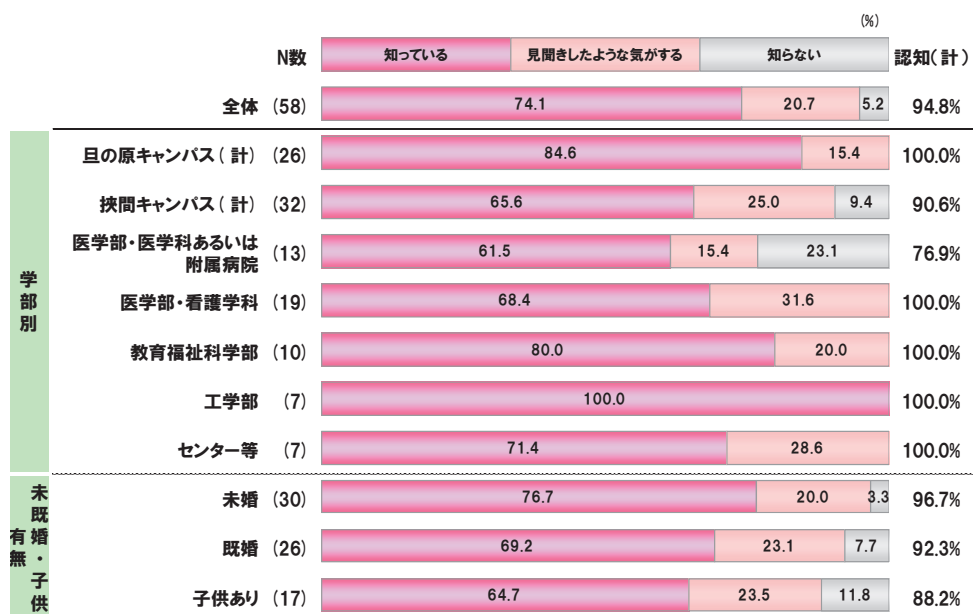
【在校生調査】

		(%)			
	N数	知っている	見聞きしたような気がする	知らない	無回答
性別	全体 (1794)	8.6	26.6	64.5	0.2
	男性 (930)	8.5	23.2	68.1	0.2
	女性 (855)	8.7	30.5	60.6	0.2
学部別	教育福祉科学部 (428)	8.4	27.8	63.8	
	経済学部 (544)	5.5	21.0	73.3	0.2
	工学部 (386)	6.2	16.8	76.7	0.3
	医学部・医学科 (326)	16.9	42.9	39.6	0.6
	医学部・看護学科 (110)	9.1	36.4	54.5	
学年別	1 年 (404)	9.4	28.7	61.6	0.2
	2 年 (387)	4.9	23.8	71.3	
	3 年 (396)	9.6	21.2	68.7	0.5
	4 年 (459)	8.7	25.9	65.4	
	5年・6年計 (142)	13.4	46.5	39.4	0.7
					認知計
					35.3%
					31.7%
					39.2%
					36.2%
					26.5%
					23.1%
					59.8%
					45.5%
					38.1%
					28.7%
					30.8%
					34.6%
					59.9%

【女性研究者調査】

- 大分大学で男女共同参画推進の取組はほぼ全員が認知。確かに「知っている」人は74%。
- 学部別に見ると、医学科・附属病院における認知率は他学部比べて低い。また子どものいる層での認知率はやや低く9割未満となっている。

Q 大分大学では、平成22年7月に男女共同参画推進本部が設置され、教育・研究や大学運営等、様々な面での男女共同参画推進への取組が行われていますが、あなたはこのことを知っていましたか。(〇はひとつだけ)



○「FAB（女性研究者サポート室）」認知・浸透状況

【卒業予定者調査】

- FABの認知は38%。(男性:31%、女性:57%)。
- 参考値であるが、医学部で高く58%。
- 認知経路はテレビCMが約半数(26人)で、学内広報を挙げた人よりも多かった。

【在校生調査】

- FABの認知は35%。(男性:31%、女性:40%)。
- 学年により差があり、男女別では女性が40%で高く、学年別では1年(47%)や5・6年(66%)で認知が高い。
- 学部別でも差が大きく、経済学部・工学部で低く2割台であるが、医学部では4割以上と高い。
- 認知経路は「学内の掲示」が45%。2～4年では、テレビCMも2割超。

【高校生調査】

- FABの認知率は5%(男性:4%、女性:6%)と、浸透はこれから。(※グラフは割愛)

Q 男女共同参画推進の一環として、女性研究者の研究環境や研究活動を行える仕組みづくりのために「女性研究者サポート室“FAB”」が開室されましたが、あなたはこのことをご存知でしたか。(○はひとつだけ)

【卒業予定者調査】

		(%)			
	N数	知っている	見聞きしたような気がする	知らない	無回答
性別	全体 (138)	22.5	15.2	56.5	5.8
	男性 (103)	20.4	10.7	64.1	4.9
	女性 (35)	28.6	28.6	34.3	8.6
学部別	教育福祉科学部 (10)	40.0		60.0	
	経済学部 (42)	26.2	9.5	45.2	19.0
	医学部 (12)	25.0	33.3	41.7	
	工学部 (74)	17.6	17.6	64.9	
					認知(計)
					37.7%
					31.1%
					57.1%
					40.0%
					35.7%
					58.3%
					35.1%

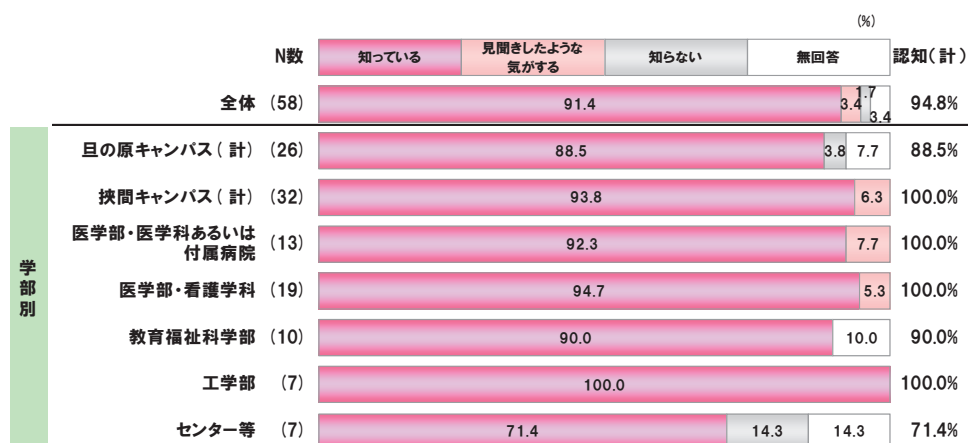
【在校生調査】

		(%)			
	N数	知っている	見聞きしたような気がする	知らない	無回答
性別	全体 (1794)	14.7	20.5	64.6	0.3
	男性 (930)	11.0	19.6	69.1	0.3
	女性 (855)	18.7	21.3	59.8	0.2
学部別	教育福祉科学部 (428)	10.7	20.8	68.5	
	経済学部 (544)	7.7	14.5	77.4	0.4
	工学部 (386)	10.9	16.3	72.3	0.5
	医学部・医学科 (326)	34.4	32.8	32.5	0.3
	医学部・看護学科 (110)	19.1	26.4	54.5	
学年別	1年 (404)	20.5	26.0	53.0	0.5
	2年 (387)	9.8	17.1	73.1	
	3年 (396)	10.1	17.9	71.5	0.5
	4年 (459)	13.7	15.0	71.0	0.2
	5年・6年計 (142)	26.8	38.7	34.5	
					認知計
					35.1%
					30.5%
					40.0%
					31.5%
					22.2%
					27.2%
					67.2%
					45.5%
					46.5%
					26.9%
					28.0%
					28.8%
					65.5%

【女性研究者調査】

- FABはほぼ全員(95%)が認知。
主な認知経路は、「学内掲示」「ホームページ」(各44%)。

Q 男女共同参画推進の一環として、女性研究者の研究環境や研究活動を行える仕組みづくりのために「女性研究者サポート室“FAB”」が開室されましたが、あなたはこのことをご存知でしたか。(〇はひとつだけ)



【女性研究者インタビュー】

- 女性研究者の間で、FABの存在は認知されている。
- 具体的活動については十分な認知とまでは言えないが、「キャリアサポート」や「FABレポート」はよく知られている。

【インナーヒアリング】

- 全国的には後発の取組ではあるが、先例も多く、急速に進展しており、国にも評価される取組内容を実施している。
- 「女性支援」は、女性だけの支援ではなく「男性支援」にもなると訴えてきている。男女共同参画という言葉もなかったところからやってきて、現在は反対と言う幹部はいない。男女共同参画を担当する理事が就任。

3. 女性研究者に対する各種サポート事業

(1) 評価まとめ

◆ 女性研究者で各施策の認知が高い一方で、 在校生・卒業予定者(女性)では継続して認知拡大を進めることが求められる

女性研究者は、「キャリアサポート」「情報サポート」の各施策に対しては8割前後、「環境サポート」では半数弱が認知しており、FABの活動内容が十分に理解されていると言える。その一方で、在校生・卒業予定者では「休憩室&相談室」が2割あるのを除いていずれも1割程度に留まっており、今後の認知拡大が期待される。

◆ 興味・意向では、全般的に在校生のスコアが高い

在校生は、すべてのサポートにおいて興味・意向が認知を上回っており、知られさえすれば興味・意向を持たれるものであると言えるため、積極的に認知を高める活動をしていくべきである。一方、女性研究者の興味・意向のスコア自体は在校生ほど高くはないものの、若手を中心に本当にサポートを必要とする人に情報を届かせていきたい。

◆ 女性研究者に対する各種サポートは、情報サポートで2割強、キャリアサポート・ 環境サポートで1割前後が参加・利用を経験

女性研究者にとって働きやすい環境が整っているとの声も挙がっているものの、参加・利用率はまだまだ高める余地がある。更なる参加・利用率を促進することでサポートを最大限活用させていくべきだと言える。

◆ 女性研究者にとってFABは心強い取組であると認識され、今後の期待も大きい

自分自身に対してだけでなく、女性研究者全体や今後に対してもFABの活動は有益だと捉えられている。利用意向も高く、今後に期待されている模様。

◆ 今後は女性研究者の不安要素を取り除く・緩和するため、情報交換や交流の促進、 関心の喚起など、ソフト面での各種サポートの充実も求められる

女性研究者に対する情報の少なさが最大の不安要素となっている場合が多いため、研究者間での情報や意識の共有を促すことで、活動に対して興味喚起していくことが必要だと言える。女性研究者が少ない学部は交流もしにくく、サポート内容や環境整備の実態がわかりにくいいため、それぞれの学部に合わせて施策を含め、様々な側面からサポートしていくことが大切である。

◆ 大分大学の対外的な評価(女性が活躍しているイメージ)の底上げはまだ道半ば

「女性が活躍しやすい環境」というイメージの浸透はまだ途上であり、女性の志望校のイメージとして多く挙げられているこのイメージを訴求していくことで、志望度アップにもつながると言える。

(2) 今後に向けての課題・提言

◆ 今後の目標設定にあたっては、 「中長期／短期の目標設定」「数値による評価／プロセスによる評価」など、 評価対象の内容に即した幅広い視点を取り入れるべきである

施策に対する認知率などは、「定期サイクルごとの数値目標の設定」が適しているのに対し、女性研究者比率の向上のように長期的な取組によって成果が現れるタイプの取組に対しては、「中長期かつプロセスによる評価」が適していることから、評価対象の内容によって目標設定のあり方を変える柔軟性が必要だと言える。

また、画一的な物差しによる評価を前提としないことにより、スピード感をもって取り組む課題・腰を据えて取り組む課題が明確化するというメリットも期待できる。

◆ 永続的にサポートを継続するためにはフィードバックの仕組みの構築が必要

支援の対象になった研究者の人数が増えてきたことから「成果発表」などのフィードバックによる効果検証を行っていく必要が出てくると考えられる。

また、「フィードバックという前提が存在 → 支援を受ける側の意識の向上 → 支援によって得られる効果の増大 → サポート事業の良質化」という好循環の発生も期待される。

◆ 専門分野や学部・学年・組織などに応じて事情が異なることを踏まえ、 よりきめ細かな対応が求められる

全般に医学部で先行した事例が多い中、サポートを受ける側、啓発を受ける側の事情を考慮に入れた取組を行っていくべきと言える。

その場合、「従来に比べて少人数に対しての取組」のウェイトが必然的に高くなると考えられるため、リソース(活動員)の確保もクリアすべき課題として浮上する。前項であげた「学生による推進委員会」や「退職教員の活用」はひとつの解決策になり得る。

◆ 男性に対する啓発にあたっては、いかに「自分ゴト」と認識させるかが鍵となる

男性側の意識が相対的に低いのは事実であり、その向上には粘り強い取組が求められる。

特に「女性への支援＝自分にはメリットがない」という認識があるならば、啓発活動においてそれを取り除く工夫が必要である。

『男性も支援の対象になっていること』『女性を支援することは、全体の環境を向上させ、ひいては男性のためでもあること』などは、これまで以上に明確に伝えていくべきであろうし、その意味では「女性研究者サポート室」が担ってきた役割が「男女共同参画推進室」に移管される(名称変更)こともその一助になる可能性があり、きっかけとして活用することもできるのではないかな。

○ FAB活動評価＜キャリアサポート＞

女性研究者比率増加のため、大分大学方式 ポジティブアクションなどの策定

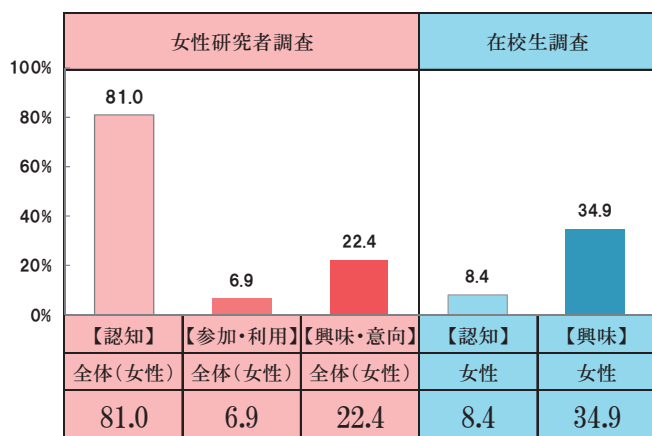
【女性研究者インタビュー】

- ・ 将来に関する不安要素として、プロモートに男女格差があった過去の職場での経験があり、ポジティブアクションの策定により男女格差に歯止めがかかると考えられる。
- ・ そもそも研究者は就職が遅いので、出産と研究の両立支援のために、保育環境の整備だけでない、採用時のポジティブアクションを含む様々な側面からのサポートが必要。
- ・ 男女格差をなくすために「採用基準の可視化」が必要との意見もある。実際にどういう理由で採用になり、不採用になったかということ公表し、記録として残さなければならないとなった時に、そこで男女差別にブレーキがかかると思われる。

【インナーヒアリング】

- ・ 20年に公募要項を変更し、「同等であれば女性を優先」の旨を明記するようにした。専門分野による男女差の偏りといった難しさはあるものの、大学事務局・人事課にて学部で作成した募集案内をチェックし、ポジティブアクションに沿った内容にするようにしている。
- ・ 今後は制度に頼らずとも女性比率が高まっていく環境整備が求められており、一定の水準に達するまでは、多少強引であっても推進していく必要がある。

研究者補助員の雇用



【女性研究者調査】

- ・ 「研究サポーター事業」は、認知も8割と高く、興味・意向も同様に高い(22%)。階層別では特に医学部・看護学科で高く32%の興味・意向。

【在校生調査】

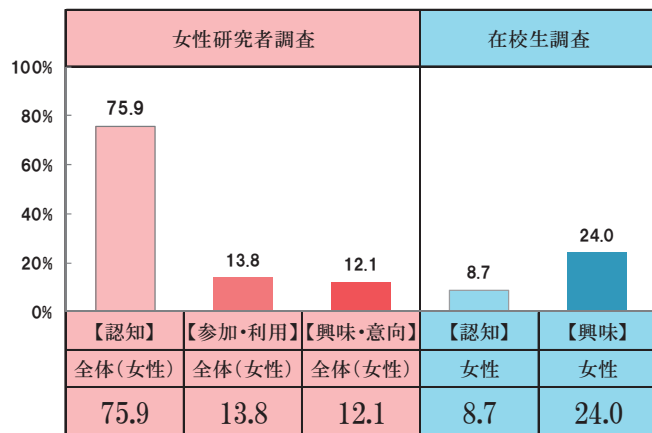
- ・ 認知は低い魅力が高い(35%)。認知に関しては、医学部(医学科・看護学科)で高く1割を超える。興味は、特に女性や、教育福祉科学部、経済学部で興味と認知のスコアのギャップが顕著。

※ FABの取組を提示し、【認知】ご存知だったもの／【参加・利用】参加、利用したり、応募したことのあるもの／【興味・意向】興味をもったもの、今後参加・応募したいと思うものをいくつでも選択してもらった形式で回答を得た。
※グラフ中の数字はすべて%

【インナーヒアリング】

- ・ 順調に稼働し、評価は良好であり、育児をしている男性研究員にも活用されている。ネーミング以上の広いサポートをしており、男女共同参画の趣旨に沿ったサポートとなっている。
- ・ 女性研究者支援を越えた支援内容であるために、女性だけの問題ではなく、女性が活性化することで男性も活性化するはずだと言いつつ続けている。男性に自分には関係ないと思われないようにすることが必要。

女性研究者の研究支援【女性研究者奨励賞】



【女性研究者調査】

- 認知は76%。40代以上で高い(81%)。
- 興味・意向は12%。

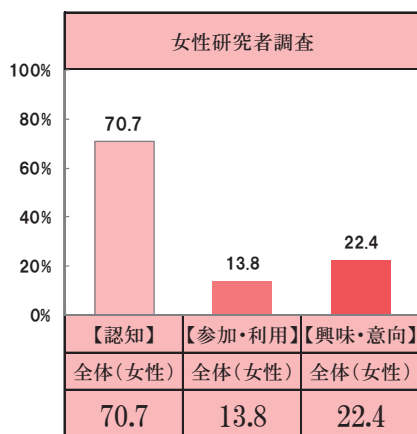
【在校生調査】

- 他項目と同様に認知は低い。ただし医学部・医学科では19%。興味は看護学科で高め(26%)。

【インナーヒアリング】

- セミナーやシンポジウムで、奨励賞などを授与して支援した研究者を中心に研究発表をするなどしている。大学自体でも研究費を出している学部もあるため、実質的な効果が見えにくいものになっており、一区切りにする可能性もある。「賞」だけではない活性化につながる支援は続けていく。

女性研究者の研究支援【女性研究者学会派遣支援】



【女性研究者調査】

- 興味・意向は22%。参考値ではあるが、工学部で高く43%。

【女性研究者インタビュー】

- 研究活動支援などに応募するのは自分(講師)と同じくらいの立場の人が多く。今までいらした先生は、関係ないと思われるためか、応募されない。

【インナーヒアリング】

- 学会派遣は活性化にもつながるため今後も続けていく予定。

※ FABの取組を提示し、【認知】ご存知だったもの／【参加・利用】参加、利用したり、応募したことのあるもの／【興味・意向】興味をもったもの、今後参加・応募したいと思うものをいくつでも選択してもらった形式で回答を得た。
※グラフ中の数字はすべて%

○ FAB活動評価＜環境サポート＞

研究環境の整備【病児保育の実現】

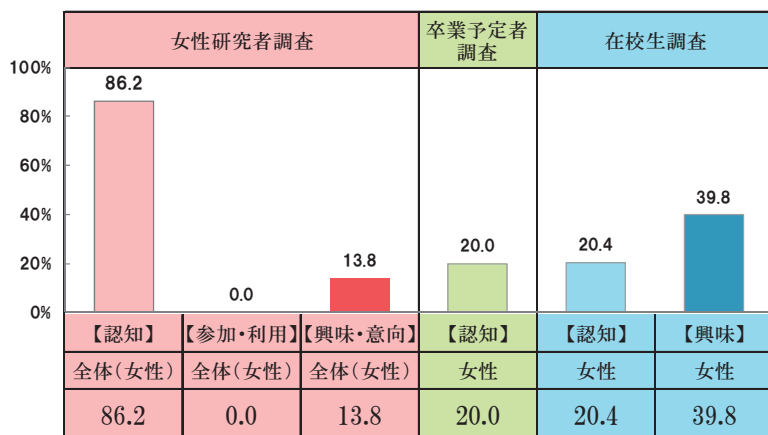
【女性研究者インタビュー】

- 病児保育のニーズは強い。親が近くに居ても、病気の子どもの預けるのは負担。病児保育があることで気分的に楽で安心感がある。
- 育児支援に関しては、保育園だけではなく、子どもが小学生になってからの支援(学童保育)も望まれている。
- また、既にキャンパス内に保育施設を有する医学部では、女性研究者にとって働きやすい環境がある程度実現。研究者自身の意識も変わってきている。一方、その他の学部では、女性研究者の少なさ、交流の少なさもあって実態がわかりにくいという問題。

【インナーヒアリング】

- 病児保育は、2013年6月から稼働予定。緊急アンケートから上がってきたニーズから設立が決定した。病児保育はとてもニーズが高く、非常に大きな成果である。これがあるから女性研究者が増えるかもしれないという期待がある。

研究環境の整備【休憩室・相談室の整備】



【女性研究者調査】

- 認知は高いが、利用経験は0%。利用意向は14%だが、挟間キャンパスでは19%、未婚層で20%。

【卒業予定者調査】

- FABの主な取組内容として認知されている。男性の認知率は女性の約半分で11%。

【在校生調査】

- 男女比の関係もあり、学部によって差がある。医学部での認知は高いが、経済学部・工学部では低い。

※ FABの取組を提示し、【認知】ご存知だったもの／【参加・利用】参加、利用したり、応募したことのあるもの／【興味・意向】興味をもったもの、今後参加・応募したいと思うものをいくつでも選択してもらう形式で回答を得た。
※グラフ中の数字はすべて%

【女性研究者インタビュー】

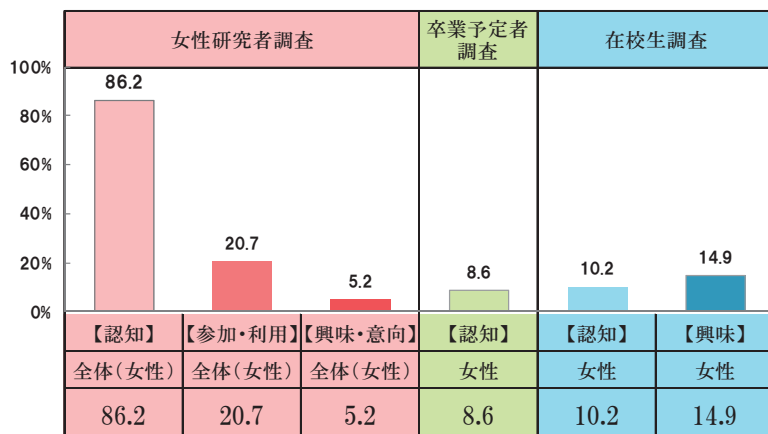
- 病児保育のニーズは強い。親が近くに居ても、病気の子どもの預けるのは負担。病児保育があることで気分的に楽で安心感がある。
- 育児支援に関しては、保育園だけではなく、子どもが小学生になってからの支援(学童保育)も望まれている。

【インナーヒアリング】

- 男女共同参画推進本部棟は、FAB事務室及び女性支援の一環である休憩室として活用。休憩室は、まず最初に両キャンパスに設置した。本部棟の「休憩室&相談室」は認知自体も低く、現在実際の利用者は少ないが、挟間キャンパスに比べ、旦野原キャンパスの環境整備はこれから引き続き進めていく。

○ FAB活動評価＜情報サポート＞

広報活動【ニュースレターやHPによる活動内容の広報】



【女性研究者調査】

- 認知は高く、86%。既婚者より未婚者で認知が高い。

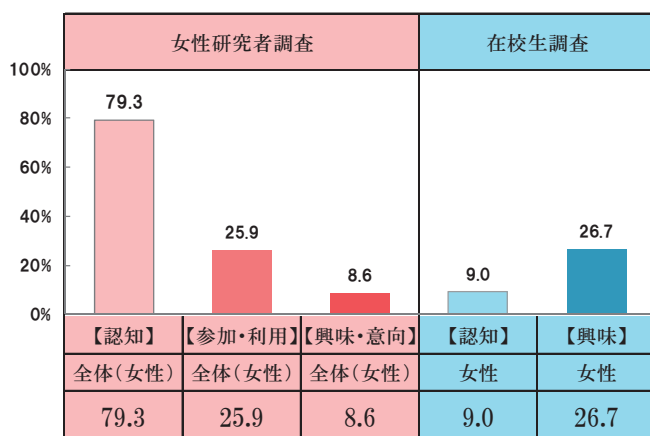
【卒業予定者調査】

- 医学部では17%の認知率。

【在校生調査】

- 5年・6年の多い医学部・医学科では認知は高く20%。

広報活動【ロールモデル誌の発行】



【女性研究者調査】

- 認知は高く、80%。興味・意向は狭間キャンパス、特に医学部・医学科あるいは付属病院で高い(31%)。

【在校生調査】

- 認知は低いものの、興味は高い。

【女性研究者インタビュー】

- 「FABレポート」は認知されているが、女性研究者同士で話題になることはまだ少ない。FABの取組自体は非常に高く評価されているため、より一層の情報提供・関心喚起が必要である。
- ホームページやFABレポートで情報提供が展開されているが、閲覧は任意であるためか、活動内容が十分に浸透するまでには至っていない。現在の情報提供ツールに加えて、関心喚起につながるような何らかの施策が必要と思われる。

【インナーヒーリング】

- 「こういう道がある」と提示することは重要。知って初めて「そのような世界もあるんだ」という気付きを与えられる。フラスコを持っているのが研究者であるというイメージを払拭し、女性でも活躍しやすい職業という印象を持たせたい。ロールモデル集は、いろいろなところで見せていく活動を続けていく。高校生に少しでも気にしてもらえるようになればよい。

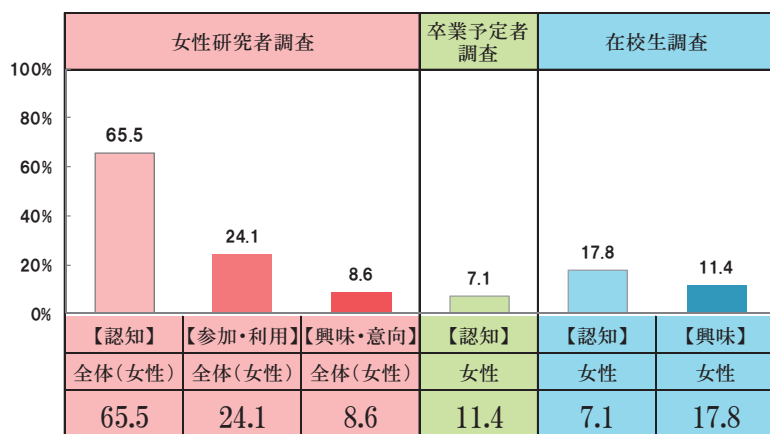
※ FABの取組を提示し、【認知】ご存知だったもの／【参加・利用】参加、利用したり、応募したことのあるもの／【興味・意向】興味をもったもの、今後参加・応募したいと思うものをいくつでも選択してもらった形式で回答を得た。
※グラフ中の数字はすべて%

啓発活動

【インナーヒアリング】

- 意識改革は道半ばである部分もあり、男女共同参画の意義については継続的な訴えかけが必要。セミナーやシンポジウムでは、有名な方を招くなどして、一般の方々にも参加してもらえる機会を作ったり、また男性を含めた意識改革を働きかけるため、男性にシンポジウムに登壇してもらったりしている。男性も含めた意識改革の推進が必要であり、男性の講演はインパクトがあった。
- 今後は、若年層(大学生)の啓発が重要課題であり、学部生向けに「男女共同参画に関する教育」の講義を始めたことは大きい。60歳の人より20歳の人の意識の方が変わるので、今後も力を入れていきたい。

交流会の実施【FAB交流会(学内)】



【女性研究者調査】

- 認知は66%。興味・意向は未婚者より既婚者で高い。

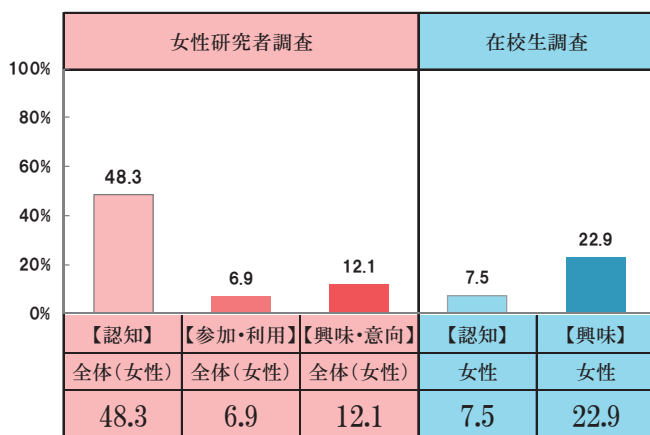
【在校生調査】

- 認知は低いものの、興味は高い。女性5年・6年では興味は25%。

【卒業予定者調査】

- 女性、教育福祉科学部で意向が高い。

交流会の実施【FABキャリア交流会(学外)】



【女性研究者調査】

- 学内の交流会より認知が低い、興味・意向は高い。

【在校生調査】

- 認知は学内の交流会と同程度であるが、興味は5ポイント程度高い。

※ FABの取組を提示し、【認知】ご存知だったもの／【参加・利用】参加、利用したり、応募したことのあるもの／【興味・意向】興味をもったもの、今後参加・応募したいと思うものをいくつでも選択してもらった形式で回答を得た。
※グラフ中の数字はすべて%

交流会の実施

【女性研究者インタビュー】

- 今後一層の活性化のためには、女性研究者の集まる「場」を積極的に設けるなど、情報や意識の共有、活動への関心の喚起を促すことが必要。
- 女性研究者同士の団結はモチベーション維持や安心感醸成につながり、情報交換・交流機会の増加が望まれる。
- 女性の少ない研究分野では、女性研究者はともすれば孤立しがち。学部・学科の垣根を越えた交流の場は必要である。
- 過去不参加者への参加依頼や、交流会で得られた成果を不参加者にフィードバックするなど、交流促進につながる仕組み作りなども検討の余地がある。

【インナーヒアリング】

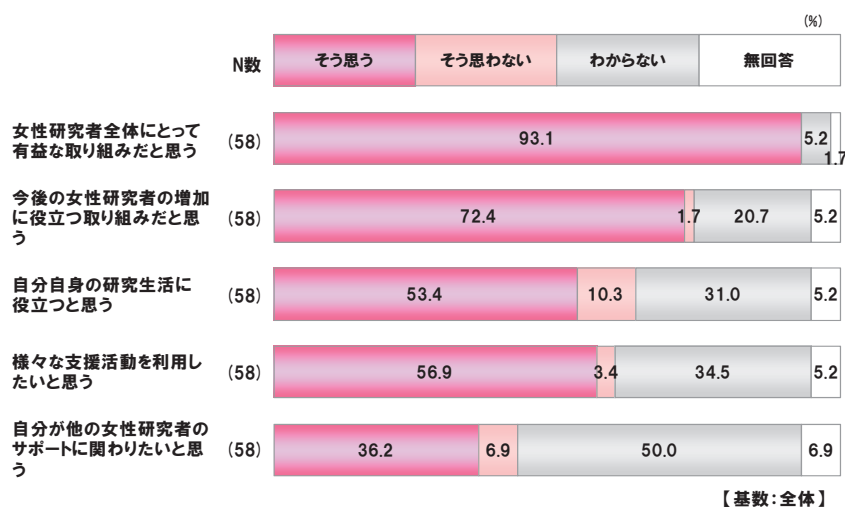
- 子育てをしながら働く女性の自己評価が低い。申し訳なさが先に立ってしまい、自信喪失につながるため、交流会などで話す機会があれば、もっと自信を持つべきだと強調している。交流会を通じた啓発の実践は持続的にやっていく。

○ FABに対する全般的な評価

【女性研究者調査】

- FABは「女性研究者全体にとって有益」(93%)、「今後の女性研究者増加に役立つ取組である」(72%)と存在意義を認める評価が高い。
- また、「自分自身の研究生活に役立つ」(53%)、「支援活動を利用したい」(57%)といった、自分自身にとって有益さも半数以上が評価している。
- キャンパス間での格差が見られ、全般的に狭間キャンパスの方が利用意向が高い。

Q 「女性研究者サポート室“FAB”」の活動について、あなたはどのように感じますか。あてはまるものをお知らせください。



【女性研究者インタビュー】

- 女性研究者サポートの取組そのものは高く評価されている。
- 医学部では男性研究者の意識も変わってきていることが実感されているなど、所属学部・学科によって意識が異なるため、学部・学科別の現状を把握し、それぞれに対応した施策が必要。
- 一層の活性化のためには、女性研究者の集まる「場」を積極的に設けるなど、情報や意識の共有、男女共同参画推進活動への関心を促すことが必要。
- 今後の課題は、「他大学との連携」「大学間格差解消」「ニーズに合わせたキャリアパス支援」。

【インナーヒアリング】

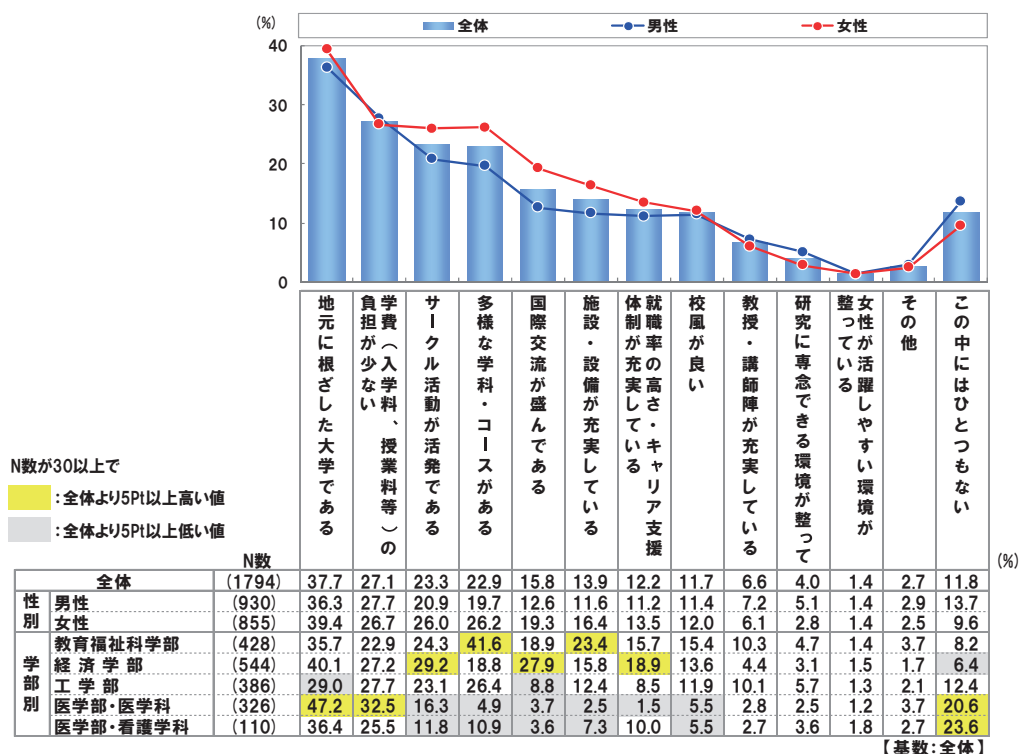
- 幹部の意識が変わってきた感覚はあるが、道半ば。専門分野により男女比の偏りがあるなど現実的な難しさに直面している。
- FABの名称が「女性研究者サポート室」であることは、女性向けと捉えられがちな側面もあった。
- 当初目標(女性研究者比率20%)の達成は難しい状況であるが、数値目標だけでなく、プロセスを評価すべきであり、長期的スパンでの目標設定の方が適している。
- 今後は制度に頼らずとも女性比率が高まっていく環境整備が求められる。

○ 大分大学のプレゼンス向上への貢献

【在校生調査】

- 大分大学の魅力ポイントの一つのカテゴリとして「女性が活躍しやすい環境が整っている」を挙げたのは1.4%であり、イメージの浸透はまだ途上であると言える。

Q あなたは、大分大学についてどのようなところが「良い／魅力的だ」と思いますか。あてはまるものをいくつでもお選びください。
(○はいくつでも)

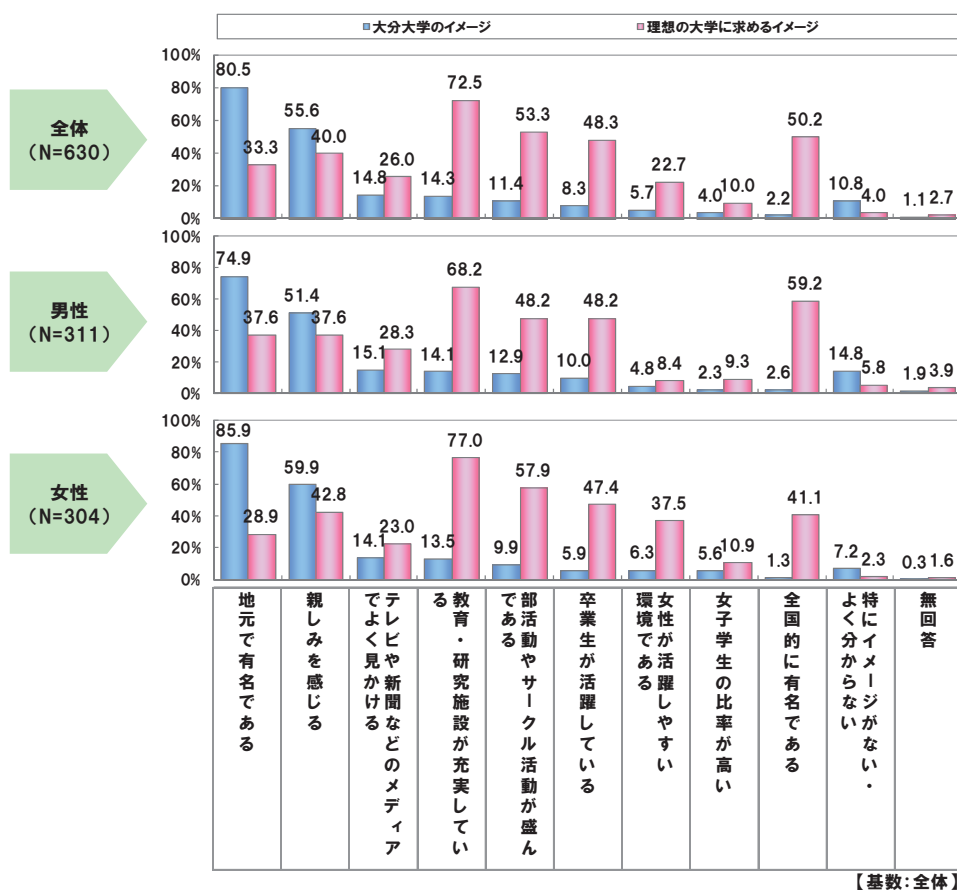


【高校生調査】

- FABの魅力度は24.1%。(男性:15%、女性:33%)
- 志望校のイメージとして、女性の38%が「女性が活躍しやすい環境」を理想に挙げている。大分大学の「女性が活躍しやすい環境」イメージは、まだ6%であるため、今後このイメージを延ばしていくことで女性の志望度アップにつながると考えられる。

Q あなたは「大分大学」について、どのようなイメージをお持ちですか。あてはまるものをいくつでもお選びください。また、理想の(自分が行きたい)大学に求めるイメージをお答えください。

大分大学に対するイメージ／理想の(自分が行きたい)大学に求めるイメージ



4. 大分大学における「女性研究者」の実状と職業としての「女性研究者」のイメージ

(1) 評価まとめ

◆ 研究の場としては一定の満足度があるものの、将来への不安を感じている研究者も多くみられる

大分大学の研究環境には女性研究者の約4割が満足しており、学内における処遇や指導者・アドバイザーが満足度との関連が高いという傾向がみられる。その一方で、約6割が将来の研究生活に対して不安を感じており、特に若年層での不安度が高い。

◆ 不安感につながる要因としては、多忙による時間の不足や、ワークライフバランスの悪さなどがあげられており、それらを改善することによって、女性研究者が自信を持って研究に邁進できる状況をつくる必要がある

業務の多さによって研究にかける時間やプライベートの時間が不足することが最大の悩みとして挙げられている。また、身分保障や家庭生活とのバランスにも不安を感じており、それが将来への不安へとつながっている様子。

◆ 女性研究者同士の交流や、先例・ロールモデルがまだ少ないことも不安を解消しきれない要因になっていると考えられる

女性研究者が少ない学部では交流も少なく、身近にお手本となる女性がいいため、将来に対する不安感が解消しにくい。特に既婚女性で交流の意向が高くなっており、女性研究者が集まって意見や体験を交換できる場を積極的に設けることが必要だと思われる。

◆ そもそも「研究者」に対しての理解が浅く、どのような職業かのイメージが希薄

次世代(在校生・高校生)においては、「自分には関係がない」「研究者という言葉が指すものがよくわからない」という人が多く、まずは研究者に対する理解を深めさせることが肝要だと思われる。

◆ 未来の研究者(在校生・高校生)においても、現役の女性研究者と同じようにワークライフバランスの悪さに不安を感じており、様々なサポートを求めている

卒業予定者も「家庭と仕事の両立」を最大の要因として挙げており、漠然とした不安を感じている様子が見える。在校生を含め、「育児・保育環境の設備・サポート体制の充実」が求められている。また、更なる女性研究者増加のためには、設備・体制の強化だけではなく、意識や情報交換の場も必要であると考えられる。

(2) 今後に向けての課題・提言

◆ 女性研究者の多くが将来への不安を抱えていることを直視し、その不安の解消・軽減に向けて優先的に取り組むべき

現役の女性研究者のみならず、次世代においてもワークライフバランスの悪さなどに対する懸念・不安が大きく、何らかのサポートを求める声は強い。

現状の取組で解消・軽減しきれていない、不安の内容や求めているサポートについては、ヒアリングなどを通じて丁寧にニーズを掘り起こしていく必要があると考えられる。

◆ 女性研究者同士の交流機会の増加を目指すとともに、需要と供給のミスマッチの解消も求められる

既婚者において、交流会への参加意向が高いにもかかわらず実際に参加した経験が少なくなっており、需要と供給のミスマッチが起こっていると言える。交流機会の増加も重要であるが、そこに留まらず「共通の悩みを持った研究者の集まり」など、当事者にとって密度の濃い取組も有効と考えられる。

もちろん、ロールモデル誌の活用など、積極的な広報施策の展開も、引き続き推し進めるべき方策である。

◆ 次世代(在校生、高校生)に対する啓発活動はさらなる強化が必要であり、そのためには外部からの戦力登用も有効な手法と考えられる

「研究者」という職業に対する理解を深め、とっつきにくさを解消するためにも啓発活動の強化は必要。ここでも「学生による推進委員会」や「退職教員の活用」もその一助になると考えられる。

○ 研究環境としての大分大学への満足度

【女性研究者調査】

- 大分大学の研究環境への満足度は38%。
- 大学への総合的な満足度と関連の深い項目は、「学内における処遇」と「指導者・アドバイザー」。
- 研究環境としての大分大学に対する満足度と現在の生活各要素の満足度の関係(下図参照)を見ると、特に「大学内における処遇」「総合的な現在の満足度」と「指導者・アドバイザー」の3項目で、満足層と不満層の差が大きい。

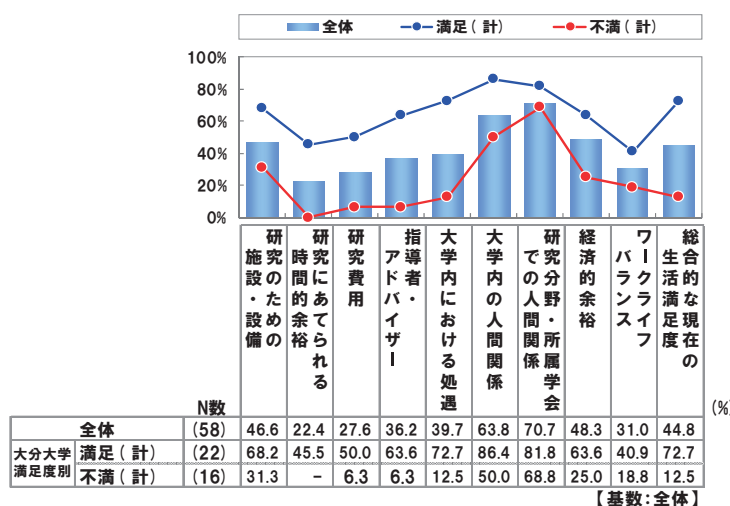
Q あなたは、「研究の環境としての大分大学にどの程度満足されていますか。(○はひとつだけ)

Q あなたは「研究」を含む現在の生活にどの程度満足されていますか。以下の項目それぞれについて、あなたのお気持ちに最も近いものをお知らせください。(○はそれぞれひとつ)

● 研究環境としての大分大学満足度

	N数	満足度 (%)						満足している(計)	満足していない(計)
		非常に満足している	まあ満足している	どちらともいえない	あまり満足していない	まったく満足していない	無回答		
全体	(58)	1.7	36.2	32.8	17.2	10.3	1.7	37.9%	27.6%
学部別									
旦の原キャンパス (計)	(26)		46.2	26.9	19.2	7.7		46.2%	26.9%
挾間キャンパス (計)	(32)	3.1	28.1	37.5	15.6	12.5	3.1	31.3%	28.1%
医学部・医学科あるいは付属病院	(13)		46.2	30.8	23.1			46.2%	23.1%
医学部・看護学科	(19)	5.3	15.8	42.1	26.3	5.3	5.3	21.1%	31.6%
教育福祉科学部	(10)		40.0	30.0	30.0			40.0%	30.0%
工学部	(7)		71.4	14.3	14.3			71.4%	14.3%
センター等	(7)		28.6	42.9	14.3	14.3		28.6%	28.6%

● 「研究」を含む現在の生活満足度(大学満足度別に見た各項目のスコア)



※グラフについて

上の設問(大分大学満足度)にて「非常に/やや満足」と回答した22人と、「あまり/まったく満足していない」16人における現在の生活満足度をそれぞれ青線・赤線で表している。

2本の線の間隔が広いものほど、大学に満足しているかにより評価の違いが大きく、総合的な大学満足度と関連が深い要素であるといえる。反対に、2本の線の間隔が狭いものほど、全般的な満足度の高低とは関係が薄い要素であるとみることができる。

【女性研究者インタビュー】

- 研究の場としての満足度は高い。⇒大分大学は研究に対して積極的な雰囲気があり、研究者の自由度が高い職場である。

○ 女性研究者としての将来への不安感

【女性研究者調査】

- 満足度が高い反面、まだ将来の研究生活には62%の人が不安を感じている。
- 中でも、若年層の不安度が高く、20～30代で71%。
- 「業務に追われて研究時間が確保できない」ことや、「身分保障への不安(任期制、昇進の難しさ)」及び「家庭生活との両立」などから、「将来設計が明確に立てられない」という意識に至り、不安につながっている。
- 研究生活を続ける上で、「研究にかけられる時間が十分ではない」「プライベートの時間が少ない」ことが最も大きな悩み。

Q あなたは将来の研究生活に不安を感じることがありますか、(○はひとつだけ)

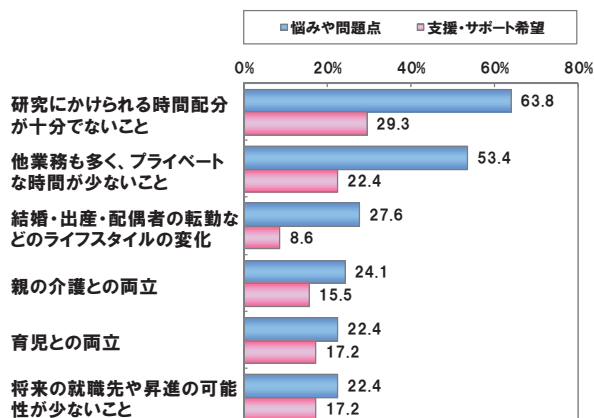
● 将来の研究生活に対する不安度

		N数	(%)					不安 (計)	不安は ない(計)		
			非常に不安	やや不安	どちらとも いえない	あまり不安 は感じない	全く不安 は感じない			無回答	
全体		(58)	12.1	50.0			24.1	12.1	1.7	62.1%	12.1%
学部別	旦の原キャンパス (計)	(26)	19.2	46.2			15.4	15.4	3.8	65.4%	15.4%
	狭間キャンパス (計)	(32)	6.3	53.1			31.3	9.4		59.4%	9.4%
	医学部・医学科あるいは 付属病院	(13)		61.5			23.1	15.4		61.5%	15.4%
	医学部・看護学科	(19)	10.5	47.4			36.8	5.3		57.9%	5.3%
	教育福祉科学部	(10)	10.0	50.0			30.0	10.0		60.0%	10.0%
	工学部	(7)	14.3	57.1				28.6		71.4%	28.6%
	センター等	(7)	14.3	42.9			14.3	14.3	14.3	57.1%	14.3%
未婚・ 有無・ 既婚・ 子供	未婚	(30)	10.0	53.3			20.0	13.3	3.3	63.3%	13.3%
	既婚	(26)	15.4	50.0			30.8	3.8		65.4%	3.8%
	子供あり	(17)	11.8	35.3			47.1	5.9		47.1%	5.9%
年齢別	20～30代	(21)	9.5	61.9			28.6			71.4%	-
	40代以上	(37)	13.5	43.2			21.6	18.9	2.7	56.8%	18.9%

Q 研究を続ける上で、あなたが感じている「悩みや問題点」がありましたら、すべてお知らせください(○はいくつでも)

Q では、現在「大学から何らかの支援・サポートをしてほしいもの」に○をつけてください。(○はいくつでも)

● 悩み・問題点／支援希望のサポート



【INNERヒアリング】

- 子育てをしながら働く女性の自己評価が低い。申し訳なさが先に立ってしまい、自信喪失につながっている。

【女性研究者インタビュー】

- ワークライフバランス的には「仕事のウエイトが高く、バランスは良くない」。

【女性の職場としての大分大学】

- 評価は所属によって異なる。女性の多い部署では、周囲の意識も変わりつつあり、理解も進んできているが、女性研究者の少ない分野では、女性研究者一人一人が努力している状態で、交流も少なく、孤立している様子がうかがえる。「女性の先輩の中に研究も結婚生活もいいレベルで両立しているモデルケースが身近にない」との発言。
⇒先例やロールモデルがないために、将来に関する不安要素が多い。

○ 女性研究者どうしにおける交流の実態

【女性研究者調査】

- 女性研究者同士の交流が「ある」のは33%で、学部・研究分野により差がある。また、既婚者層の方が交流が少ない様子。しかし、交流の意向については、既婚者層では、42%。女性研究者同士の交流を望んでいながら、実現できていない人も多くいるものとうかがえる。

Q あなたご自身は「女性研究者」同士の交流についてどのように思われますか。例えば、女性研究者同士、ざっくばらんに話をし情報交換を行ったり、本音が語れるような会が催された場合をイメージしてお答えください。(〇はひとつだけ)

	N数	交流の意向 (%)						交流した い(計)	交流した くない(計)
		交流をしたい	できれば 交流したい	どちらとも いえない	あまり交流した いと思わない	交流したくない	無回答		
全体 (58)		5.2	32.8		46.6	8.6	6.9	37.9%	8.6%
学部別	旦の原キャンパス (計) (26)	3.8	30.8		53.8		11.5	34.6%	11.5%
	狭間キャンパス (計) (32)	6.3	34.4		40.6	6.3	12.5	40.6%	6.3%
	医学部・医学科あるいは 付属病院 (13)	15.4		53.8			30.8	69.2%	-
	医学部・看護学科 (19)		21.1	47.4		10.5	21.1	21.1%	10.5%
	教育福祉科学部 (10)	10.0		40.0			50.0	50.0%	-
	工学部 (7)		28.6		42.9		28.6	28.6%	28.6%
	センター等 (7)		14.3		71.4		14.3	14.3%	14.3%
未婚・ 有無・ 子供	未婚 (30)	6.7	26.7		53.3	6.7	6.7	33.3%	6.7%
	既婚 (26)	3.8	38.5		38.5	11.5	7.7	42.3%	11.5%
	子供あり (17)	5.9	29.4		47.1	5.9	11.8	35.3%	5.9%
年齢別	20～30代 (21)	4.8	42.9		38.1	9.5	4.8	47.6%	9.5%
	40代以上 (37)	5.4	27.0		51.4	8.1	8.1	32.4%	8.1%
将来 度別 不安	不安 (計) (36)	8.3	41.7		30.6	8.3	11.1	50.0%	8.3%
	非不安 (計) (21)		19.0		71.4		9.5	19.0%	9.5%

【基数：全体】

Q あなたの専門分野・所属学会において「女性研究者」同士の交流はどの程度ありますか。(〇はひとつだけ)

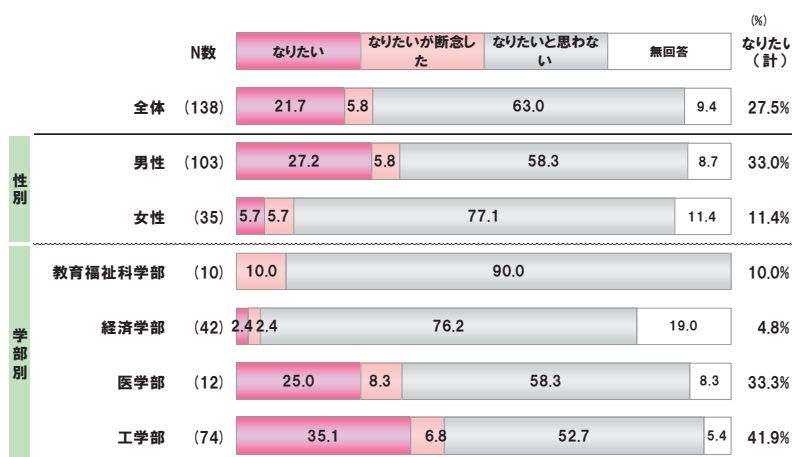
	N数	交流の程度 (%)						ある(計)	ない(計)
		よくある	ときどきある	あまりない	まったくない	わからない	無回答		
全体 (58)		13.8	19.0	24.1	24.1	15.5	3.4	32.8%	63.8%
学部別	旦の原キャンパス (計) (26)	23.1		26.9		38.5	11.5	23.1%	76.9%
	狭間キャンパス (計) (32)	25.0	15.6	21.9	12.5	18.8	6.3	40.6%	53.1%
	医学部・医学科あるいは 付属病院 (13)	30.8		46.2		7.7	15.4	30.8%	69.2%
	医学部・看護学科 (19)	42.1	5.3	5.3	15.8	21.1	10.5	47.4%	42.1%
	教育福祉科学部 (10)	30.0		20.0		40.0	10.0	30.0%	70.0%
	工学部 (7)	28.6		28.6		42.9		28.6%	71.4%
	センター等 (7)	28.6		42.9		28.6		-	100.0%
未婚・ 有無・ 子供	未婚 (30)	13.3	26.7	10.0	23.3	23.3	3.3	40.0%	56.7%
	既婚 (26)	15.4	11.5	34.6		26.9	7.7	26.9%	69.2%
	子供あり (17)	17.6	11.8	35.3		17.6	11.8	29.4%	64.7%
年齢別	20～30代 (21)	4.8	33.3	19.0	23.8	14.3	4.8	38.1%	57.1%
	40代以上 (37)	18.9	10.8	27.0	24.3	16.2	2.7	29.7%	67.6%

○ 「研究者になること」に対する次世代の意識

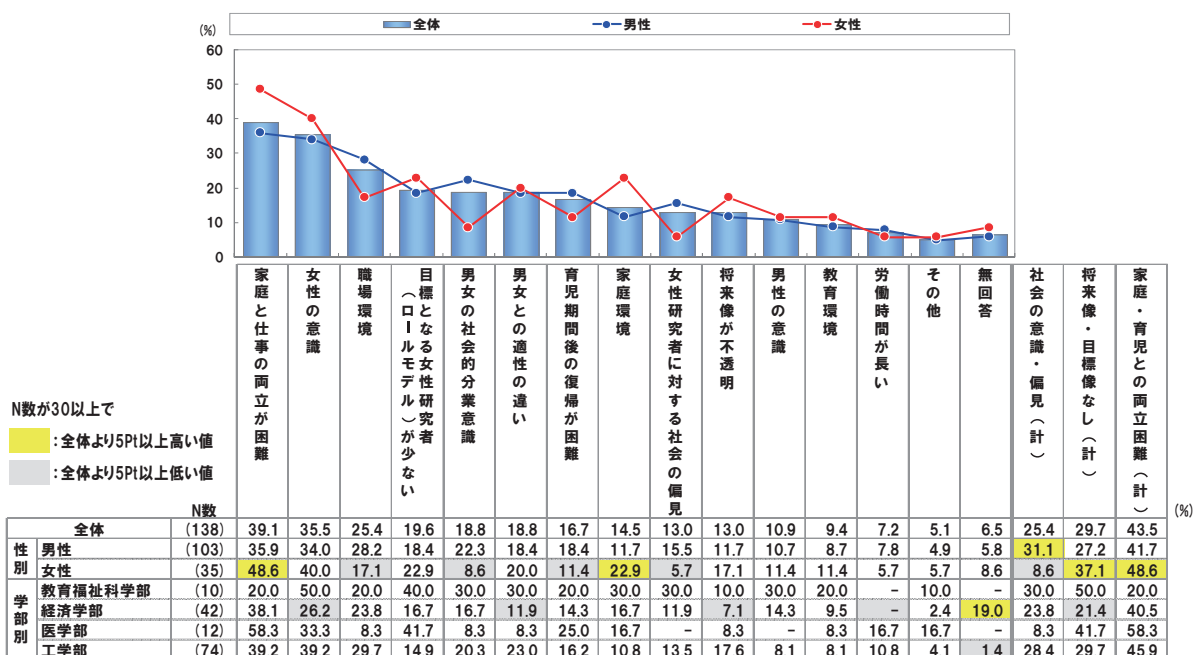
【卒業予定者調査】

- 「研究者になりたい」は男性27%＞女性6%で、圧倒的に女性が少ない。女性では「なりたい」という志望者と同率で「断念者」も出現している。理由として、「自分の時間があまりとれなさそう」といったワークライフバランス面でのネガティブイメージなどが挙げられた。
- 「家庭と仕事の両立が困難」が最大の理由。女性は特に、「家庭と仕事の両立」や「家庭環境」「将来像目標像の不明確さ」を要因と考える傾向が強く、「職場環境」「男女の社会的分業意識」は男性の方がスコアが高い。
- **女性研究者増加のためには、「育児・保育環境の整備・サポート体制の充実」と「必要な情報の提供」が最も必要だと考えられている。**

Q あなたご自身は将来「研究者」になりたいと思いますか。(○はひとつだけ)



Q あなたは、女性研究者が少ない理由は何だと思いますか。主なものを3つまで選んでください。(○は3つまで)



Q あなたは、女性研究者を増やすために何が必要だと思いますか。主なものを3つまで選んでください。(〇は3つまで)

【卒業予定者調査】

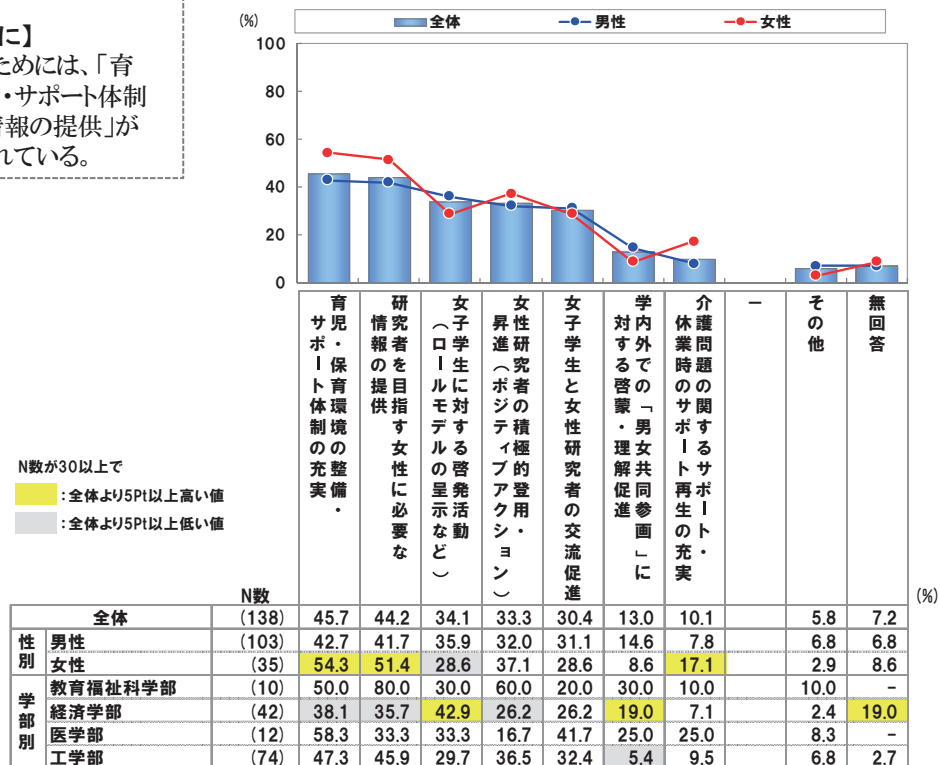
【女性研究者増加のために】

- 女性研究者増加のためには、「育児・保育環境の整備・サポート体制の充実」と「必要な情報の提供」が最も必要だと考えられている。

N数が30以上で

■ : 全体より5Pt以上高い値

■ : 全体より5Pt以上低い値



【在校生調査】

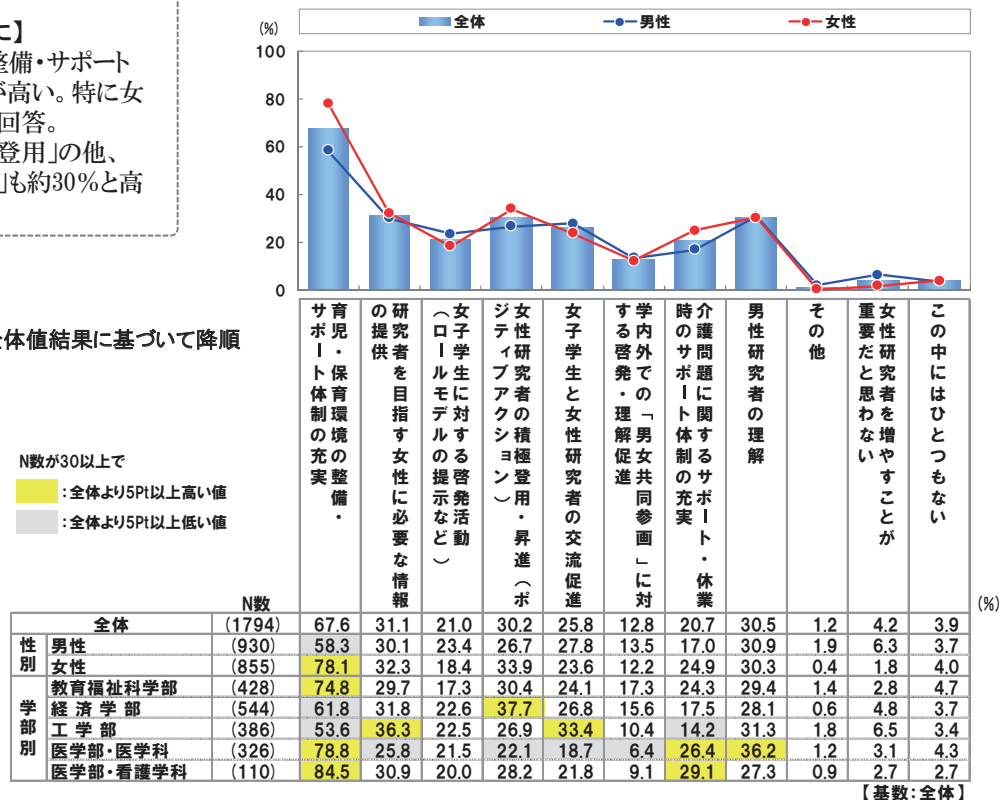
【女性研究者増加のために】

- 「育児・保育環境の整備・サポート体制の充実」(68%)が高い。特に女性では78%が必要と回答。
- 「情報の提供」「積極登用」の他、「男性研究者の理解」も約30%と高い。

N数が30以上で

■ : 全体より5Pt以上高い値

■ : 全体より5Pt以上低い値



【基数:全体】

※ 項目順は卒業生調査の全体値結果に基づいて降順

○ 次世代が抱く「研究者」のイメージ

【在校生調査】

- 82%が「いま学んでいることを将来的に自分の仕事にしたい」と回答しているものの、1～4年において、「研究者の道を目指してみたい」人は、男性が2～3割、女性では1～2割台にとどまる。
また、女性では60%以上が「自分には関係がない」と感じている。
- 1～4年では女性の45%、男性では39%が「研究者」という言葉が指すものがよくわかっていない。

Q ところであなたは、「大学卒業後も、大学院に進学したり、大学の先生になるなどして、大学内に研究者として残る」という考え方について、どのような印象やイメージをお持ちになりますか。それぞれの意見について、あてはまるものをひとつお選びください。（○はひとつだけ）

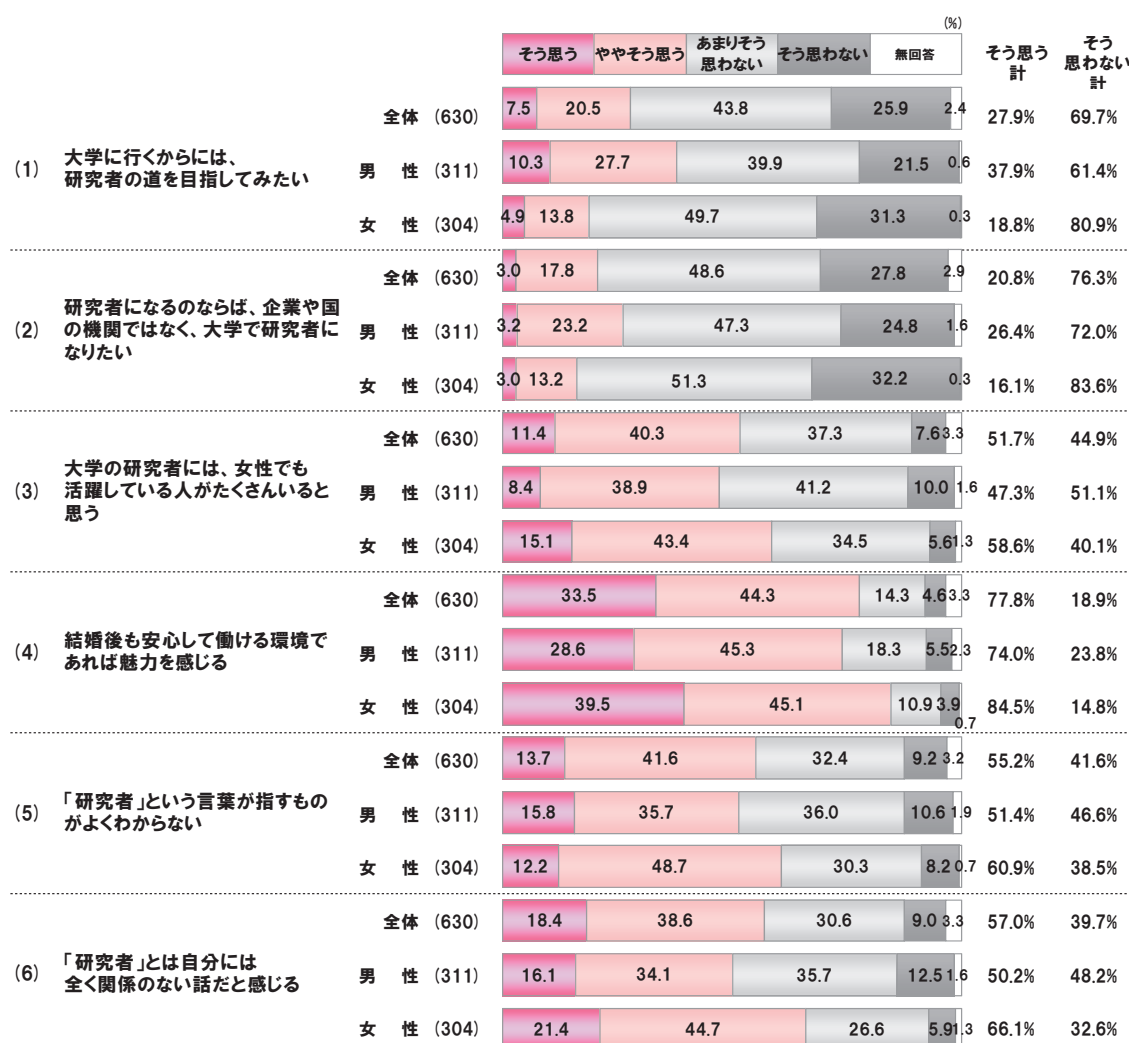
		(%)					そう思う 計	そう 思わない 計
		そう思う	ややそう 思う	あまりそう 思わない	そう思わない	無回答		
(1) いま学んでいることを将来的に自分の仕事・職業にしたい	全体 (1794)	50.3		31.2	10.3	4.8	81.5%	15.2%
	男 性 (930)	47.1		33.0	11.5	5.3	80.1%	16.8%
	女 性 (855)	53.8		29.4	9.0	4.3	83.2%	13.3%
(2) 研究者の道を目指してみたい	全体 (1794)	9.8	20.2	32.9	33.6	3.6	29.9%	66.5%
	男 性 (930)	10.3	25.2	31.4	29.7	3.4	35.5%	61.1%
	女 性 (855)	9.2	14.7	34.6	37.8	3.6	24.0%	72.4%
(3) 研究者になるのなら、企業や国の機関ではなく、大学で研究者になりたい	全体 (1794)	8.6	22.0	37.6	27.5	4.3	30.5%	65.1%
	男 性 (930)	9.8	23.4	35.6	26.9	4.3	33.2%	62.5%
	女 性 (855)	7.4	20.5	39.6	28.2	4.3	27.8%	67.8%
(4) 大学の研究者には、女性でも活躍している人がたくさんいると思う	全体 (1794)	21.7	38.7	30.0	5.4	4.1	60.5%	35.4%
	男 性 (930)	20.1	38.3	31.4	5.8	4.4	58.4%	37.2%
	女 性 (855)	23.4	39.3	28.7	4.9	3.7	62.7%	33.6%
(5) 結婚後も安心して働ける環境であれば魅力を感じる	全体 (1794)	47.0		37.4	8.5	3.0	84.4%	11.5%
	男 性 (930)	42.7		40.9	9.4	3.3	83.5%	12.7%
	女 性 (855)	51.5		33.8	7.7	2.4	85.3%	10.4%
(6) 「研究者」という言葉が指すものがよくわからない	全体 (1794)	10.0	32.1	36.0	18.1	3.7	42.1%	54.1%
	男 性 (930)	10.0	29.0	37.1	20.3	3.5	39.0%	57.4%
	女 性 (855)	9.9	35.3	35.2	15.7	3.9	45.3%	50.9%
(7) 「研究者」とは自分には全く関係のない話だと感じる	全体 (1794)	20.2	32.9	27.9	15.4	3.5	53.1%	43.4%
	男 性 (930)	17.8	28.7	30.6	19.6	3.2	46.6%	50.2%
	女 性 (855)	22.8	37.5	25.0	10.9	3.7	60.4%	35.9%

【基数：全体】

【高校生調査】

- 研究者は「自分には関係がない」が57%。(男性:50%、女性:66%)
- 「研究者を目指してみたい」は28%。(男性:38%、女性:19%)
- 文系志望者で特に研究者についてのイメージが薄い。
- 希望進路別に見て、理・工系でも、47%は「研究者」がどんなものか分かっていない。

Q ところであなたは、「大学卒業後も、大学院に進学したり、大学の先生になるなどして、大学内に研究者として残る」という考え方について、どのような印象やイメージをお持ちになりますか。それぞれの意見について、あてはまるものをひとつお選びください。(〇はひとつだけ)



【基数:全体】

参 考 資 料

今後に向けての課題・提言一覧

【1】大分大学における「男女共同参画」の浸透と、女性研究者サポート室の活動

- ◆ 男女共同参画を推進する部隊こそが、男女共同参画の望ましい形を体現すべき
- ◆ 学生の当事者意識を高め、取組に巻き込んでいく仕掛けが求められる
- ◆ 「男女共同参画」という言葉の高い浸透度を有効に活用すべき
- ◆ 親しみやすさの確保は重要な要素
- ◆ 男女共同参画推進体制の拡大・強化も、今後重要な課題となる

【2】女性研究者に対する各種サポート事業

- ◆ 今後の目標設定にあたっては、「中長期／短期の目標設定」「数値による評価／プロセスによる評価」など、評価対象の内容に即した幅広い視点を取り入れるべきである
- ◆ 永続的にサポートを継続するためにはフィードバックの仕組みの構築が必要
- ◆ 専門分野や学部・学年・組織などに応じて事情が異なることを踏まえ、よりきめ細かな対応が求められる
- ◆ 男性に対する啓発にあたっては、いかに「自分ごと」と認識させるかが鍵となる

【3】大分大学における「女性研究者」の実状と職業としての「女性研究者」のイメージ

- ◆ 女性研究者の多くが将来への不安を抱えていることを直視し、その不安の解消・軽減に向けて優先的に取り組むべき
- ◆ 女性研究者同士の交流機会の増加を目指すとともに、需要と供給のミスマッチの解消も求められる
- ◆ 次世代(在校生、高校生)に対する啓発活動はさらなる強化が必要であり、そのためには外部からの戦力登用も有効な手法と考えられる

ワークセッションからのアイデア一覧

学生FAB推進委員会

【学生の当事者意識を高めることで、男女共同参画の推進をより強固に】「FAB推進機構」が学生にあまり伝わりきれていなかった反省から、学生を推進側に入れることにより、情報の伝わり方を改善。学生主導の行動が教職員側・大学側の行動喚起につながることを期待。

女性が来たいと思える共有設備整備（女子トイレの増設・食堂をキレイに）

【初歩的なアメニティから見直す】例として、工学部本棟は5階建てで2階にしか女子トイレがなく、休憩室に暖房や机もなく、鍵も閉まらない。情報発信できる場所なのにキレイでなく、自ら進んで行きたいと思える場所ではないのが現状であり、それらの改善から、女性研究者が興味を持ってもらう環境づくりを進めていきたい。

“女性”を使わない室名(キャッチフレーズの学内公募)

【学生の当事者意識を高めることで、男女共同参画の推進をより強固に】親しみやすい名称にすることにより浸透度を高めるとともに、公募という手順を踏むことによって、学生の当事者意識を高め、理解促進にも寄与することを狙う。
【女性だけに対する支援と思わせないための工夫】キャッチフレーズを作成する際には、「女性」だけでなく「男性」に対する支援も行っていることが伝わるような名称にするべき。

イクメン推進

【女性だけに対する支援と思わせないための工夫】男性が育児を体験することで、女性の職場環境もよくなると考えられる。また長期的には、イクメンが増えることによって「就職したい」という人(男性・女性とも)が増え、結果として、良い人材が入ってくるようになることも期待できる。

学童保育(夏期休暇)

【サポート事業に対する学生の参加を促す】教育学部の学生ボランティアを中心に、夏季休暇中に小学生の子どもを持つ職員の手助けをして家庭と仕事の両立に貢献。学生にとっても、教育実習に近い経験値を積むことができる。

男女の部門長を1人選出(1年ごと交互)

推進体制強化(声をあげる人を増やす)

【大学運営における意思決定への男女共同参画の推進】「男女共同参画」は女性が推進するものという固定観念を打破できる理想的な形と言える。
男女両方の視点を取り組みに活かされるものであり、3年くらいで実現にこぎつけられると良い。

退職教員の活用協力

【地域社会との連携を目指した取り組みの一環として】在職中に得た経験や反省を持っている退職教員の方の力を借りることで、現任教員では賄いきれない「地域への活動」の補完役を担ってほしい。

学生の現場にFABメンバーが出向く(説明)

【サポートを必要とする人への情報提供のために】現在のセミナー中心の情報発信では、サポートの必要があったとしてもFABの活動を知るきっかけがない人には情報が届かない恐れがある。むしろ、FABメンバーが実際に現場に行き(アウトバウンド)意見交換することで、情報を知ってほしい人に伝えられる確率を上げることができる。

支援を受けた研究の成果を「見える化」～成果の公表

【サポートを継続的に続けていくために】支援した研究者にその成果を発表してもらうようにすることで、支援を受ける側の認識を高める。結果的に、支援を受けた研究の質が高まることにもつながり、サポート自体の価値も向上することで、サポート事業がより効果的に行われる(好循環を生み出す)ことが期待される。

支援を受けた方に協力してもらおう・もらいたい

【サポートを継続的に続けていくために】支援を受けた研究者には、若い世代の研究者支援に積極的に協力してもらいたい。いわゆる「恩返し」の形をとることで、将来的なサポート体制の増強にもつながる。

○ 学部卒業生に対する調査票

2012年2月 大分大学 女性研究者サポート室

大分大学平成23年度卒業生向けアンケート

ご卒業おめでとうございます。卒業にあたって、本学についてのアンケートにご協力をお願いします。

次に挙げる各々の質問について、(○はひとつ)(具体的に)等の指示に従って、ご記入ください。(○印は、回答番号に○をお願いします)

あなたご自身についてお知らせください。

FS1 学部 (○はひとつ)			FS2 性別 (○はひとつ)		FS3 年齢 (具体的に)	
1 教育福祉科学部	3 医学部・医学科	5 工学部	1 男性	歳		
2 経済学部	4 医学部・看護学科		2 女性			
FS4 出身地 (○はひとつ)			FS5 出身高校 (具体的に)		FS6 現役/浪人	
1 大分県内	3 その他	高 校		1 現役 2 浪人		
2 大分以外の九州	()					
FS7 住居の形態 (○はひとつ)			FS8 アルバイト(大学入学後～現在まで) (○はひとつ)			
1 親と同居(自宅から通学)	3 大学の寮	1 現在、アルバイトをしている 3 アルバイトはしていない 2 アルバイトをしていた(現在は、していない)				
2 大学周辺のアパート(一人暮らし)	4 その他					
FS9 卒業後の進路について (○はひとつ)						
<教育福祉化学・経済・工学部卒業生> 1 一般企業に就職 2 官公庁に就職 3 教員 4 大学院進学 5 留学・その他 6 未定						
<医学部医学科卒業生> 1 大分大学医学部付属病院 2 その他の大学病院 3 その他の病院・医療機関 4 大学院進学 5 留学・その他						
FS10 あなたはご自分の進路(就職か、進学かなど)について、いつ頃決めましたか。(○はひとつ)						
1 大学入学時まで 2 大学入学後(1～2年次) 3 大学入学後(3～4年次) 4 卒業間際になって						

大分大学での学生生活についてお伺いします。

Q1 あなたが大分大学を選んだ理由はどのようなことでしたか。当てはまるものをすべてお知らせください。(○はいくつでも)

1 自分の学びたい学科・コースがある・充実しているから	9 地元の大学だから(自宅から通学できるから)
2 大分大学の校風が好きだから	10 出身校からの進学者が多いから
3 総合大学だから	11 友人や先輩が在学しているから
4 就職率が高い・キャリア支援体制が充実しているから	12 先生や親にすすめられて
5 国際交流が盛んだから	13 オープンキャンパスの印象がよかったから
6 サークル活動が充実・入りたいサークルがあったから	14 学費(入学料、授業料など)の負担が少ないから
7 施設・設備が充実しているから	15 入試の難易度が自分の学力レベルにあっていたから
8 教授・講師陣に魅力があるから	16 その他()

Q2 学生生活をふりかえって、あなたは「大分大学での学生生活全般」にどの程度満足していますか。(○はひとつ)

1 非常に満足している	2 まあ満足している	3 どちらともいえない	4 あまり満足していない	5 まったく満足していない
-------------	------------	-------------	--------------	---------------

Q3 あなたは後輩や弟妹など身近な人に「大分大学への進学」をすすめたいと思いますか。(○はひとつ)

1 ぜひすすめたい	2 まあすすめたい	3 どちらともいえない	4 あまりすすめたくない	5 まったくすすめたくない
-----------	-----------	-------------	--------------	---------------

Q4 あなたが「大分大学での学生生活を通じて修得できたこと」は何だと思いますか。具体的にお知らせください。

Q4-SQ 【Q4の回答について】そのことは今後のあなた自身のキャリアに活かせると思いますか。(○はひとつ)

1 非常に役立つと思う	2 まあ役立つと思う	3 あまり役立つと思う	4 役立たないと思う	5 わからない
-------------	------------	-------------	------------	---------

ここからは「男女共同参画」についてお伺いします。

Q5 あなたは、「男女共同参画」(男女が互いの人権を尊重し社会に参加し、社会経済情勢の変化に対応し豊かで活力ある社会を築いていくことという言葉をご存知でしたか。(○はひとつ)

- 1 知っている 2 見聞きしたような気がする 3 知らない

Q6 大分大学においても平成22年7月に男女共同参画推進本部が設置され、教育・研究や大学運営等、様々な面での男女共同参画推進への取り組みが行われていますが、あなたはこのことをご存知でしたか。(○はひとつ)

- 1 知っている 2 見聞きしたような気がする 3 知らない

Q7 また、男女共同参画推進の一環として、女性研究者の研究環境の整備や研究活動を行える仕組み作りのために「女性研究者サポート室“FAB”」が開室されましたが、あなたはこのことをご存知でしたか。(○はひとつ)

- 1 知っている 2 見聞きしたような気がする 3 知らない

Q7-SQ 【Q7で1, 2の方に】「女性研究者サポート室“FAB”」について、何からお知りになりましたか。

Q8 平成23年度に実施された「女性研究者サポート室“FAB”」取り組みとして、以下のようなものがあります。の中で、あなたがご存知だったものに○、参加・受講したことのあるものに◎をつけてください。(○、◎はいくつでも)

- 1 女性研究者サポート室の「休憩室&相談室」設置
2 ニュースレターやホームページによる活動内容広報
3 FAB交流会実施(学内の女性研究者のネットワーク構築への取り組み)
4 新入生・1年生を対象とした男女共同参画教育(医学部、経済学部)
5 医学部セミナー「女性医療人のキャリア継続のために」(H23年7月15日)
6 男女共同参画セミナー開催(工学部、経済学部で実施)
7 医学部祭における女性研究者サポート室主催講演会(H23年10月8日)
8 全学共通科目男女共同参画講義「職業とキャリア開発」(H24年2月1日に実施)
9 オープンキャンパスでの女性研究者支援活動の紹介
10 その他()

Q9 ところで、あなたご自身は将来「研究者」になりたいと思いますか。(○はひとつ)

- 1 なりたい 2 なりたいが断念した 3 なりたいと思わない

Q9-SQ 【上記の回答について】そのように思われる理由を具体的にお知らせください。

Q10 大分大学では、学部学生のうち女子学生比率は39%ですが、修士・博士課程での女子学生の比率は25.9%、女性教員においては15.6%を占めるにすぎない状況です(平成22年5月現在)
あなたは、**女性研究者が少ない理由は何だと思われますか**。主なものを3つまで選んでください。(○は3つまで)

- | | | |
|--------------|------------------|---------------------------|
| 1 教育環境 | 6 女性の意識 | 11 目標となる女性研究者(ロールモデル)が少ない |
| 2 家庭環境 | 7 男性の意識 | 12 家庭と仕事の両立が困難 |
| 3 職場環境 | 8 女性研究者に対する社会の偏見 | 13 育児期間後の復帰が困難 |
| 4 男女の社会的分業意識 | 9 労働時間が長い | 14 その他 |
| 5 男女との適性の違い | 10 将来像が不透明 | 具体的に→ |

Q11 では、**女性研究者を増やすためには何が必要だと思いますか**。主なものを3つまで選んでください。(○は3つまで)

- 1 女子学生に対する啓発活動(ロールモデルの呈示など)
2 女子学生と女性研究者の交流促進
3 研究者を目指す女性に必要な情報の提供
4 学内外での「男女共同参画」に対する啓蒙・理解促進
5 女性研究者の積極的登用・昇進(ポジティブアクション)
6 育児・保育環境の整備・サポート体制の充実
7 介護問題の関するサポート・休業時のサポート再生の充実
8 その他()

以上でアンケートは終了です。ご協力、ありがとうございました。

○ 女性研究者に対する調査票

2012年5月 大分大学 女性研究者サポート室

大分大学女性研究者アンケート

本学についてのアンケートにご協力をお願いします。

このアンケートは、女性研究者支援活動の向上のため、皆様の忌憚なきご意見を承りたく実施しています。

お忙しい中ではございますが、何卒、ご協力いただけますようお願い致します。

次に挙げる各々の質問について、(○はひとつ)(具体的に)等の指示に従って、ご記入ください。(○印は、回答番号に○をお願いします)

★メールでご回答の方は、回答番号のセルにポインターを合わせ、罫線の「枠」から で囲ってください。(例 1)

あなたご自身についてお知らせください。

FS1 学部 (○はひとつ)

1 教育福祉科学部	3 医学部・医学科あるいは付属病院	5 工学部
2 経済学部	4 医学部・看護学科	6 センター等

FS2 研究分野・所属学会(具体的に)

FS3 現在の職位 (○はひとつ)

1 教授	3 講師	5 助手	6 その他()
2 准教授	4 助教		

FS4 年齢 (具体的に)

歳

FS5 未婚 (○はひとつ)

1 未婚
2 既婚

FS6 子供の有無 (○はひとつ)

1 いる
2 いない

お子さまの人数	人	お子さまの性別・年齢・学齢など
		[] オ
		[] オ
		[] オ

FS7 出身大学 (具体的に)

1 大分大学
2 その他()

FS8 研究職についてからの年数 (具体的に)

年

FS9 ① 今までに研究者(大学院課程履修中を含む)としてのキャリア(職業・職場)を離れた(中断・離職)ご経験はありますか。

② 【あるとお答えになった方に】中断・離職されていたのはどのぐらいの期間ですか。(具体的に)

③ 【あるとお答えになった方に】中断・離職の理由をお知らせください。(○はいくつでも)

FS9-1 <中断・離職経験の有無>

1 ある 2 ない → Q1へお進みください

FS9-2 <中断・離職期間>

年

FS9-2 <中断・離職理由>

1 妊娠・出産 3 配偶者の転勤 5 研究者以外の職につくため
2 育児 4 家族の介護 6 その他()

現在の生活(研究環境を含む)についてお伺いします。

Q1 あなたは、「研究の環境としての大分大学」にどの程度満足されていますか。(○はひとつ)

1 非常に満足している	2 まあ満足している	3 どちらともいえない	4 あまり満足していない	5 まったく満足していない
-------------	------------	-------------	--------------	---------------

Q2 あなたは「研究」を含む現在の生活にどの程度満足されていますか。

以下の各項目それぞれについて、あなたのお気持ちに最も近いものをお知らせください。(○はそれぞれひとつ)

	非常に満足	まあ満足	どちらともいえない	やや不満	非常に不満
<研究環境について>					
1 研究のための施設・設備	⇒ 1	2	3	4	5
2 研究にあてられる時間的余裕	⇒ 1	2	3	4	5
3 研究費用	⇒ 1	2	3	4	5
4 指導者・アドバイザー	⇒ 1	2	3	4	5
5 大学内における処遇	⇒ 1	2	3	4	5
6 大学内の人間関係	⇒ 1	2	3	4	5
7 研究分野・所属学会での人間関係	⇒ 1	2	3	4	5
<生活全般について>					
8 経済的余裕	⇒ 1	2	3	4	5
9 ワークライフバランス	⇒ 1	2	3	4	5
10 総合的な現在の生活満足度	⇒ 1	2	3	4	5

Q2-SQ Q1やQ2でお答えになった理由や、研究の場としての大学に関するご意見がありましたらお知らせください。

--

- Q3 研究費の獲得(科研費以外の外部資金も含む)についておうかがいします。
 ①平成24年度(本年度)の研究費申請と採択の状況についてお知らせください。
 ②平成23年度(昨年度)の研究費申請と採択の状況についてお知らせください。

	SQ1 研究費の申請をしましたか (○はひとつ)	SQ2 その研究費の種類は (○はひとつ)	【SQ1で2の方に】 SQ3 採択されなかった理由・採択のために必要 と思うこと(具体的に)
①平成 24 年度	1 申請して採択された 2 申請したが採択されなかった 3 申請しなかった	1 科学研究費補助金 2 その他外部資金(具体的に) 	
②平成 23年度	1 申請して採択された 2 申請したが採択されなかった 3 申請しなかった	1 科学研究費補助金 2 その他外部資金(具体的に) 	

- Q4 ① 研究を続ける上で、あなたが感じている「悩みや問題点」がありましたら、すべてお知らせください。(○はいくつでも)
 ② では、現在「大学から何らかの支援・サポートしてほしいもの」に○をつけてください。(○はいくつでも)

	① ↓	② ↓
1 結婚・出産・配偶者の転勤などのライフスタイルの変化(研究の継続が困難、長期的見通しがたたないなど) ⇒	1	1
2 育児との両立 ⇒	2	2
3 親の介護との両立 ⇒	3	3
4 経済的な不安(現在の収入や将来の昇給見通しへの不安・不満) ⇒	4	4
5 将来の就職先や昇進の可能性が少ないこと ⇒	5	5
6 専門分野に女性研究者が少なく、女性同士の交流が少ないこと ⇒	6	6
7 身近に研究生活の悩みや問題に関する相談相手がいないこと ⇒	7	7
8 女性研究者に対する男性研究者の意識(差別、偏見など) ⇒	8	8
9 他業務も多く、プライベートな時間が少ないこと ⇒	9	9
10 一人で頑張らなくてはならないという孤立感があること ⇒	10	10
11 研究にかけられる時間配分が十分でないこと ⇒	11	11
12 将来のプランで目指すべきロールモデルが身近にいないこと ⇒	12	12
13 その他() ⇒	13	13

- Q5 ① 研究を続ける上で、あなたが「必要・あったらよいと思われる(大学からの)支援・サポート」をすべてお知らせください。(○はいくつでも)
 ② ①に挙げられた中で、現在、あなたが「今すぐに支援・サポートが必要なもの」に○をつけてください。(○はいくつでも)

	① ↓	② ↓
出 産 ・ 育 児 支 援	1 研究補助員(実験補助、文献調査やデータ解析などをサポートしてくれるアシスタント)制度の充実 ⇒	1
	2 出産・育児休暇や、育児中の時短勤務など、育児と研究を両立できるような勤務体制の整備 ⇒	2
	3 保育施設の充実(保育所新設、定員の増員など) ⇒	3
	4 ベビーシッター割引券の発行 ⇒	4
	5 病児保育の実施 ⇒	5
	6 学童保育の実施 ⇒	6
援 ・ 研 究 ・ 補 助 支	7 研究費獲得について相談できる制度の充実(メンター) ⇒	7
	8 国内外の学会への派遣支援や研究費の補助 ⇒	8
	9 女性教員の採用や管理職への積極的登用(ポジティブアクション) ⇒	9
	10 女性研究者の優れた研究活動の表彰制度 ⇒	10
そ の 他	11 研究上の問題点や悩みを気軽に相談できる人や制度の充実 ⇒	11
	12 女性研究者同士の交流機会の増大 ⇒	12
	13 生活全般の悩み・問題について相談できるような窓口、相談室の設置 ⇒	13
	14 その他() ⇒	14

裏面にお進みください

Q6 あなたは将来の研究生生活に不安を感じることがありますか。(○はひとつ)

- | | | | | |
|---------|--------|-------------|--------------|-------------|
| 1 非常に不安 | 2 やや不安 | 3 どちらともいえない | 4 あまり不安は感じない | 5 全く不安は感じない |
|---------|--------|-------------|--------------|-------------|

Q6-SQ 【Q2の回答について】そのように思われる理由を具体的にお知らせください。

ここからは「男女共同参画」についてお伺いします。

Q7 大分大学では、平成22年7月に男女共同参画推進本部が設置され、教育・研究や大学運営等、様々な面で男女共同参画推進への取り組みが行われていますが、あなたはこのことをご存知でしたか。(○はひとつ)

- | | | |
|---------|---------------|-------------|
| 1 知っている | 2 聞ききたような気がする | 3 知らない →Q8へ |
|---------|---------------|-------------|

Q7-SQ1 【Q7で1,2の方に】大学が男女共同参画推進に取り組むことについてどのように思われますか。(○はひとつ)

- | | | |
|------|------|-------------|
| 1 賛成 | 2 反対 | 3 どちらともいえない |
|------|------|-------------|

Q7-SQ2 【SQ1のご回答について】そのように思われる理由を具体的にお知らせください。

Q8 あなたご自身は、大分大学での研究生生活(研究環境)において、性別による処遇の差を意識したことがありますか。(○はひとつ)

- | | | |
|------|-----------|----------------|
| 1 ある | 2 ない →Q9へ | 3 よくわからない →Q9へ |
|------|-----------|----------------|

Q8-SQ1 【Q8で1(ある)の方に】どのような面で男女差を感じますか。(○はいくつでも)

- | | | |
|---------|-----------|-------|
| 1 採用 | 3 業績評価 | 5 その他 |
| 2 昇進・昇給 | 4 研修などの機会 | 具体的に→ |

Q9 では、あなたの研究分野・所属学会において、性別による処遇の差を意識したことがありますか。(○はひとつ)

- | | | |
|------|------------|-----------------|
| 1 ある | 2 ない →Q10へ | 3 よくわからない →Q10へ |
|------|------------|-----------------|

Q9-SQ 【Q9で1(ある)の方に】どのような面で男女差を感じますか。(○はいくつでも)

- | | | |
|---------|-----------|-------|
| 1 採用 | 3 業績評価 | 5 その他 |
| 2 昇進・昇給 | 4 研修などの機会 | 具体的に→ |

Q10 では、これまでの研究生生活の中で「女性だから不利だ」と感じた経験はありますか。(○はひとつ)

- | | | | |
|--------|----------|---------|----------|
| 1 よくある | 2 ときどきある | 3 あまりない | 4 まったくない |
|--------|----------|---------|----------|

Q10-SQ 【Q10で1,2(ある)の方に】どのような点が不利だと思われるか具体的にお知らせください。

大分大学の「女性研究者サポート室“FAB”」についてお伺いします。

Q11 大分大学では男女共同参画推進の一環として、女性研究者の研究環境の整備や研究活動を行える仕組み作りのために「女性研究者サポート室“FAB”」が開室されましたが、あなたはこのことをご存知でしたか。(○はひとつ)

- | | | |
|---------|---------------|--------------|
| 1 知っている | 2 聞ききたような気がする | 3 知らない →Q12へ |
|---------|---------------|--------------|

Q11-SQ 【Q11で1, 2の方に】「女性研究者サポート室“FAB”」について、何からお知りになりましたか。

- | | | | |
|----------------|----------|--------------|-------|
| 1 テレビCM | 3 学内の掲示 | 5 教授会などの席で | 7 その他 |
| 2 テレビ番組・ニュースなど | 4 ホームページ | ニュースレターなどを見て | 具体的に→ |

Q12 平成23年度までに実施された「女性研究者サポート室“FAB”」の取り組みとして、以下のようなものがあります。

- ① この中で、あなたがご存知だったものをすべてお知らせください。(○はいくつでも)
② あなたが、参加、利用したり、応募したことのあるものをすべてお知らせください。(○はいくつでも)
③ この中で、あなたが興味を持ったもの、今後参加・応募したいと思うものをすべてお知らせください。(○はいくつでも)

	① ご存知 だったも の	② 参加・利 用・応募	③ 興味のあるもの
1) 女性研究者サポート室の「休憩室＆相談室」設置	1	1	1
2) ニュースレター(FABレポート)やホームページによる活動内容広報	2	2	2
3) FAB交流会実施(学内の女性研究者のネットワーク構築への取り組み)	3	3	3
4) FABキャリア交流会(学外の先輩女性研究者との交流会)	4	4	4
5) 女性研究者奨励賞の実施(本学所属の女性研究者および大学院生対象)	5	5	5
6) 春期・秋期に学会派遣支援の実施(本学所属の女性研究者および大学院生対象)	6	6	6
7) 研究サポーター事業*の開始(平成23年11月～)	7	7	7
* 育児(妊娠中を含む)・介護に携わる研究者に対し、研究補助業務に従事する研究サポーターを配置			
8) ロールモデル誌「大分大学の輝く女性研究者」を発行(平成24年1月)	8	8	8
9) その他()	9	9	9

Q13 「女性研究者サポート室“FAB”」の活動について、あなたはどのように感じますか。

あてはまるものをすべてお知らせください。(○はいくつでも)

	そう思う	そう思わない	わからない
1 女性研究者全体にとって有益な取り組みだと思う	⇒ 1	2	3
2 今後の女性研究者の増加に役立つ取り組みだと思う	⇒ 1	2	3
3 自分自身の研究生活に役立つと思う	⇒ 1	2	3
4 様々な支援活動を利用したいと思う	⇒ 1	2	3
5 自分が他の女性研究者のサポートに関わりたいと思う。	⇒ 1	2	3

Q14 「女性研究者サポート室“FAB”」の活動に対してご意見やご要望がありましたら、
どのようなことでも結構ですので、具体的にご記入ください

「女性研究者同士の交流」についてお伺いします。

Q15 あなたの専門分野・所属学会における「女性研究者」の割合はどのくらいですか。
大体で結構ですので、お知らせください。

男性 () 人に対し、女性は () 人ぐらい

Q16 あなたの専門分野・所属学会において「女性研究者」同士の交流はどの程度ありますか。(○はひとつ)

1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない 5 わからない

Q17 あなたご自身は、「女性研究者」同士の交流についてどのように思われますか。(○はひとつ)

例えば、女性研究者同士、ざっくばらんに話をし情報交換を行ったり、本音が語れるような会が催された場合をイメージしてお答えください。

1 交流をしたい 2 できれば交流したい 3 どちらともいえない 4 あまり交流したいと思わない 5 交流したくない

◆ よろしければお名前をご記入ください。

※ご回答いただきました貴重なご意見は、女性研究者支援活動の向上のための分析を行います。
個人情報女性研究者サポート室が責任を持って管理し、個人情報学内外に露呈することは一切ございません。

尚、実際の支援活動の拡大や、より役に立つ支援開発のために、優先的に取り組むべき支援について
サポート室からご連絡させていただくかもしれません。皆様のご意見をなるべく反映させる形で検討して参りたいと存じます。
何卒、趣旨をご理解の上、ご協力いただけますようお願い致します。

以上でアンケートは終了です。ご協力、ありがとうございました。

○ 高校生に対する調査票

＜進路や大学に関するアンケート調査票＞

この度はアンケートにご協力いただきましてありがとうございます。

このアンケートは、高校生の皆様に、『大学に対する意識や大分大学のイメージ』『男女共同参画社会（詳しくは後述します）についてのお考え』などをお聞きするもので、皆様の意見を今後の大学運営の参考にさせていただくために実施します。

率直なご意見をご記入いただきますよう、ご協力をよろしくお願いいたします。

※アンケートの結果は統計的な分析資料としてのみ使用します。それ以外の用途には一切使用しません。

国立大学法人 大分大学

●ご回答は、質問の順にご記入ください。

●選択肢式の質問については、あてはまる回答項目の番号を、○印で囲んでください。

○印の数は、質問文の指示（○印はひとつ、○印はいくつでも）の通りにおつけください。

はじめに、「大学に対する意識や、大分大学のイメージ」について、お伺いします。

Q1 （１）あなたは「大分大学」について、どのようなイメージをお持ちですか。

あてはまるものをいくつでもお選びください。

また、（２）については、理想の（自分が行きたい）大学に求めるイメージをお答えください。

（○はそれぞれいくつでも）

	(1)	(2)
	「大分大学」 のイメージ	理想の (自分が行きたい) 大学に求める イメージ
全国的に有名である	1	1
地元で有名である	2	2
教育・研究施設が充実している	3	3
卒業生が活躍している	4	4
テレビや新聞などのメディアでよく見かける	5	5
親しみを感じる	6	6
部活動やサークル活動が盛んである	7	7
女性が活躍しやすい環境である	8	8
女子学生の比率が高い	9	9
特にイメージがない・よく分からない	10	10

Q2 「大分大学」についてお聞きします。あなたが大分大学について

知っていること、魅力に思うことをお選びください。

（○はそれぞれいくつでも）

	(1)	(2)
	知っている こと	魅力に思う こと
女性研究者をサポートする「FAB」が大学内に開設されている	1	1
就職活動やキャリア形成を全面的にサポートするキャリア開発課がある	2	2
海外54大学との交換留学プログラムがある	3	3
この中にはひとつもない	4	4

Q3 あなたは大分大学について、

受験・進学の対象として考えたときに、どれくらい興味がありますか。

（○はひとつだけ）

1 とても興味がある	3 どちらともいえない・わからない	4 あまり興味がない
2 やや興味がある		5 まったく興味がない

- Q4** あなたは、「大学卒業後も、大学院に進学したり、大学の先生になるなどして、大学内に研究者として残る」という考え方について、どのような印象やイメージをお持ちになりますか。それぞれの意見について、あてはまるものをひとつお選びください。（○はそれぞれひとつだけ）

	そう思う	そうや思う	あまりそう 思わない	そう い 思 わ な
(1) 大学に行くからには、研究者の道を目指してみたい	1	2	3	4
(2) 研究者になるのならば、企業や国の機関ではなく、大学で研究者になりたい	1	2	3	4
(3) 大学の研究者には、活躍している女性がたくさんいると思う	1	2	3	4
(4) 結婚後も安心して働ける環境であれば魅力を感じる	1	2	3	4
(5) 「研究者」という言葉が指すものがよくわからない	1	2	3	4
(6) 「研究者」とは自分には全く関係のない話だと感じる	1	2	3	4
(7) その他（具体的に：_____）				

ここからは、「男女共同参画社会についてのお考え」について、お伺いします。

- Q5** あなたは、「男女共同参画」ということばについて知っていましたか。（○はひとつだけ）

「男女共同参画」：男女が互いの人権を尊重し社会に参加し、社会経済情勢の変化に対応し豊かで活力ある社会を築いていくこと

1 知っている 2 見聞きしたような気がする 3 知らない

- Q6** 次にあげるような考え方について、あなたは「賛成」「反対」どちらのお立場ですか。あなたの意見に最も近いものをお知らせください。（○はそれぞれひとつだけ）

	賛成	い ど え ち ら ば ら 賛 か 成 と	い ど え ち ら ば ら 反 か 対 と	反 対	わ か ら な い
(1) 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方	1	2	3	4	5
(2) 「女性が社会で活躍するのは良いことだ」という考え方	1	2	3	4	5
(3) 「女性は、結婚しても働き続けるのが良い」という考え方	1	2	3	4	5
(4) 「女性は、子どもができたらず育てに専念すべきである」という考え方	1	2	3	4	5

最後に、あなたご自身のことについて、お伺いします。

- Q7** あなたの学年、コース、性別をお選びください。

学年

1 1年 2 2年

コース

1 普通科 2 理数科

性別

1 男性 2 女性

- Q8** あなたの志望について、最もあてはまるものをひとつお選びください。（○はひとつだけ）

1 法・経済系 2 文・国際・外国語系 3 教育・生活系
4 理・工系 5 農・水系 6 医療系
7 芸術・体育系 8 その他（_____）

ご協力、ありがとうございました。

○ 学部在校生に対する調査票

<大学生活および男女共同参画社会に関するアンケート調査票>

この度はアンケートにご協力いただきましてありがとうございます。
このアンケートは、大分大学に在籍の皆様に、『大分大学に対する評価や大学生活についてのお気持ち』や『男女共同参画社会（詳しくは後述します）についてのお考え』などをお聞きするもので、皆様の意見を今後の大学運営や各種事業の推進の参考にさせていただくために実施します。
率直なお意見をご記入いただきますよう、ご協力をよろしくお願いいたします。
※アンケートの結果は統計的な分析資料としてのみ使用します。それ以外の用途には一切使用しません。

国立大学法人 大分大学 女性研究者サポート室

- ご回答は、質問の順にご記入ください。
- 選択肢式の質問については、あてはまる回答項目の番号を、○印で囲んでください。
○印の数は、質問文の指示（○印はひとつ、○印はいくつでも）のとおりにおつけください。

はじめに、あなたご自身のことについて、お伺いします。

FS1 学年	FS2 学部	FS3 性別	FS4 出身地
年	1 教育福祉科学部 2 経済学部 3 医学部・医学科 4 医学部・看護学科 5 工学部	1 男性 2 女性	1 大分県 2 その他 ()
FS5 卒業後の進路について（現時点で最も希望するものひとつに○）（○はひとつだけ）			
<教育福祉科学部・経済学部・工学部の方>		<医学部の方>	
1 一般企業に就職 2 官公庁に就職 3 教員として就職 4 大学院進学（大分大学大学院） 5 大学院進学（大分大学以外） 6 留学・その他 [具体的に:]		1 大分大学医学部附属病院に就職 2 その他の大学病院に就職 3 その他の病院・医療機関に就職 4 病院・医療機関以外に就職 5 大学院進学（大分大学大学院） 6 大学院進学（大分大学以外） 7 留学・その他 [具体的に:]	

「男女共同参画社会についてのお考え」について、お伺いします。

Q1 あなたは、「男女共同参画」ということばについて知っていましたか。（○はひとつだけ）

「男女共同参画」：男女が互いの人権を尊重し社会に参加し、社会経済情勢の変化に対応し、豊かで活力ある社会を築いていくこと

1 知っている	2 見聞きしたような気がする	3 知らない
---------	----------------	--------

Q2 次にあげるような考え方について、あなたは「賛成」「反対」どちらのお立場ですか。
あなたの意見に最も近いものをお答えください。（○はそれぞれひとつだけ）

	賛成	どちらか といえば 賛成	どちらか といえば 反対	反対	わからない
(1) 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方	1	2	3	4	5
(2) 「女性が社会で活躍するのは良いことだ」という考え方	1	2	3	4	5
(3) 「女性は、結婚しても働き続けるのが良い」という考え方	1	2	3	4	5
(4) 「女性は、子どもができれば子育てに専念すべきである」という考え方	1	2	3	4	5

Q3 大分大学では、平成22年7月に男女共同参画推進本部を設置し、教育・研究や大学運営等、様々な面での男女共同参画推進への取り組みを行っていますが、あなたはこのことを知っていましたか。（○はひとつだけ）

1 知っている	2 見聞きしたような気がする	3 知らない
---------	----------------	--------

Q4 また、男女共同参画推進の一環で、女性研究者の研究環境の整備や、研究活動を行える仕組み作りを推進する組織として「女性研究者サポート室“FAB”」が開設されていますが、あなたはこのことを知っていましたか。（○はひとつだけ）

1 知っている	2 見聞きしたような気がする	3 知らない
---------	----------------	--------

【Q4で1または2に○の方のみお答えください】

⇒Q6へ

Q5 【Q4で1、2の方に】「女性研究者サポート室“FAB”」について、何からお知りになりましたか。（○はいくつでも）

1 学内の掲示	4 ホームページ	7 シンポジウムやセミナーなどのイベント
2 テレビCM	5 ニュースレターなどを見て	8 口コミで
3 テレビ番組・ニュース	6 男女共同参画教育講義	9 その他 ()

右側のページへお進みください

【ここからは、全員の方がお答えください】

Q6 「女性研究者サポート室“FAB”」の取り組みとして平成24年度までに実施されたものとして、以下のようなものがあります。

- ①この中で、あなたをご存知だったものをすべてお知らせください。
②この中で、あなたが興味を持ったものをすべてお知らせください。

	(○はそれぞれいくつでも)	
	① ご存知だった もの	② 興味を 持ったもの
(1) 女性研究者向けに「休憩室&相談室」を設置	1	1
(2) ニュースレター（FABレポート）やホームページによる活動内容の広報	2	2
(3) FAB交流会（学内の女性研究者のネットワーク構築）の開催	3	3
(4) FABキャリア交流会（学外の先輩女性研究者との交流会）の開催	4	4
(5) 女性研究者奨励賞の実施（本学所属の女性研究者および大学院生対象）	5	5
(6) 研究サポーター事業（育児・妊娠中・介護に携わる研究者に対し、研究補助業務に従事する研究サポーターを配置）の実施	6	6
(7) ロールモデル誌「大分大学の輝く女性研究者」の発行	7	7
(8) その他（ ）	8	8

Q7 大分大学では、学部学生のうち女子学生比率は39.1%ですが、修士・博士課程での女子学生比率は24.1%、女性教員においては16.1%を占めるに過ぎない状況であり、男女共同参画推進の観点から女性研究者（女性教員）の比率のアップが急務とされています。

あなたは、女性研究者を増やすために何が必要だと思いますか。主なものを3つまで選んでください。（○は3つまで）

- | | |
|-----------------------------|------------------------------|
| 1 女子学生に対する啓発活動（ロールモデルの提示など） | 6 育児・保育環境の整備・サポート体制の充実 |
| 2 女子学生と女性研究者の交流促進 | 7 介護問題に関するサポート・休業時のサポート体制の充実 |
| 3 研究者を目指す女性に必要な情報の提供 | 8 男性研究者の理解 |
| 4 学内外での「男女共同参画」に対する啓発・理解促進 | 9 その他（ ） |
| 5 女性研究者の積極登用・昇進（ポジティブアクション） | 10 女性研究者を増やすことが重要だと思わない |

Q8 「大分大学における男女共同参画推進」や「女性研究者サポート室“FAB”」について、ご意見やご要望、またはあなたが感じていることなどありましたら、どのようなことでも結構ですので、ご自由にお書きください。

最後に、大分大学に対する評価や大学生活についてのお気持ちについてお伺いします。

Q9 あなたは、大分大学についてどのようなところが「良い／魅力的だ」と思いますか。

あてはまるものをいくつでもお選びください。（○はいくつでも）

- | | |
|--------------------------|------------------------|
| 1 多様な学科・コースがある | 7 研究に専念できる環境が整っている |
| 2 校風が良い | 8 女性が活躍しやすい環境が整っている |
| 3 就職率の高さ・キャリア支援体制が充実している | 9 教授・講師陣が充実している |
| 4 国際交流が盛んである | 10 地元に根ざした大学である |
| 5 サークル活動が活発である | 11 学費（入学科、授業料等）の負担が少ない |
| 6 施設・設備が充実している | 12 その他（具体的に： ） |

Q10 あなたは、「大学卒業後も、大学院に進学したり、教員になるなどして、大学内に研究者として残る」

という考え方について、どのような印象やイメージをお持ちになりますか。

それぞれの意見について、あてはまるものをひとつお選びください。

	(○はそれぞれひとつだけ)			
	そう思う	やや そう思う	あまり そう思わ ない	そう思わ ない
(1) いま学んでいることを将来的に自分の仕事・職業にしたい	1	2	3	4
(2) 研究者の道を目指してみたい	1	2	3	4
(3) 研究者になるのなら、企業や国の機関ではなく、大学で研究者になりたい	1	2	3	4
(4) 大学の研究者には、女性でも活躍している人がたくさんいると思う	1	2	3	4
(5) 結婚後も安心して働ける環境であれば魅力を感じる	1	2	3	4
(6) 「研究者」という言葉が指すものがよくわからない	1	2	3	4
(7) 「研究者」とは自分には全く関係のない話だと感じる	1	2	3	4

ご協力、ありがとうございました。

外からの目 External Evaluation

平成25年 3 月

発 行 国立大学法人 大分大学

女性研究者サポート室

連絡先 〒870-1192 大分市大字旦野原700番地

TEL 097-554-8573 FAX 097-554-6039



Female Academics at Bundai

E-mail : fsupport@oita-u.ac.jp

URL <http://www.fab.oita-u.ac.jp/>